

體格検査表ヲ添へ師團長ニ報告スヘシ(同上)
師團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者(二十歳未滿ノ者ヲ除ク)ノ體身検査表ヲ本籍地ノ聯隊區
徴兵官ニ送付ス可シ

第七條 第四條及第六條ノ身體検査不合格ノ者ハ聯隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官徴集免除
又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徴集ニ適セサル者ハ徴集延期ノ處分ヲ爲スヘシ

第八條 師團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不參セル者並學術試験ニ落第セシ
者(二十歳未滿ノ者ヲ除ク)ヲ本籍地ノ聯隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ニ通知ス可シ

第九條 師團長ハ合格人員中所管外ノ備成地ニ於テ兵役スヘキ者ノ人名書ニ名冀望ノ兵科及
備成地ヲ記シ當該所管ノ師團長ニ通知スヘシ

同兵種二隊以上アル備成地ニ於テ服役冀望ノ者アルトキハ前項ノ通知ヲ受ケタル師團長其
ノ隊號ヲ指定シ之ヲ居住地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

第九條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附録第二樣式ニ官費服役證書ハ第六樣式ニ依
リ作ル可シ但條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲ス可キ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨
ヲ記載スヘシ

第十一條 師團長ハ同兵種二隊以上アル衛成地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル
可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ

官費服役者中醫學、藥學、理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊(理財學、商

業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地步兵隊ニ限ル)ニ獸醫學卒業證書ヲ所持ス
ル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配付ス可シ

第十二條 師團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者ハ自費服役、官費服役、次年廻シ等
ニ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添へ當該聯隊長(聯隊ヲ爲ササル者ニ在テハ該隊長以下
同シ)ニ下付スヘシ

第十三條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名書
師團長ニ報告ス可シ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵
官ニ通知スヘシ

第十四條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルト
キハ師團長之ヲ聯隊長ニ達スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徴兵官又ハ
警備隊徴兵官ニ通知スヘシ

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十
二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

第十五條 一年志願兵徴兵事務終結後師團長ハ附録第七樣式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り
翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十六條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ
聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫部長若クハ獸醫部長ニ送附シ監督部

長、軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命
スルモノトス

六十

藥劑生ハ衛戍病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十七條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ更ニ徒歩刀ヲ

給ス軍醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十八條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附録第八様式ニ依リ成績表ヲ作り陸軍

大臣ニ報告スヘシ

第十九條 一年志願兵終末試験及第證書ハ附録第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第二十條 一年志願兵入隊前轉住其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキハ

師團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ルモノハ豫メ當該師團長ト協議スルヲ要ス

第二十一條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還附

ス(様式之ヲ略ス)

●試補判任見習ニテ一年志願兵トナル者取扱方(明治廿二年三月 閣令第十一號)

誠補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナルモノハ在職ノ儘服役スルヲ得

但服役期日ハ軍務練習ノ期限ニ算入セス有給者ニハ俸給ヲ給セサルモノトス

●陸軍志願兵身體検査規則(明治三十二年三月 陸軍省令第六號)

第一條 陸軍志願兵身體検査ハ其ノ身體ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス

此ノ檢トハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

此ノ規則ハ陸軍士官候補生並諸生徒志願者ニモ適用ス

第二條 志願者身長ノ定限ハ五尺以上トス但別ニ定ムル所アルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 志願者ノ體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 甲種 身體強健ナル者

二 乙種 身體甲種ニ亞ク者

三 丙種 前二項ニ當ラサル者及身長定限ニ達セサル者

第四條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス

第五條 丙種トナスヘキ者概テ左ノ如シ

一 全身發育不全ナル者

二 精神機能ニ妨アル者及諸種ノ神經系病ニシテ急治スヘカラサル者

三 諸種ノ内臟疾患ニシテ急治スヘカラサル者

四 視力ニ障碍アル者但一年志願兵、士官候補生、軍醫學校生徒、衛生部獸醫部依託學生

及同依託生徒志願者ハ近視ニ限り其ノ度ヲ斟酌シテ特ニ合格トナスコトヲ得

五 聽機ニ障碍アル者

六 咀嚼、言語ノ機能ニ妨アル者

第四類 第一章 陸軍師團休兵條例

六十一

七 骨、軟部ノ疾患ニシテ急治スヘカササル者
八 諸種ノ癩癧、畸形、缺損等ニシテ醜形甚シク又ハ運動ニ妨アル者

●陸軍下士及志願兵服役免除ニ關スル件 (明治二十六年二月)

陸軍各兵科各部下士及志願兵ニシテ現役中傷病疾病ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ國民兵役ニ服セシム但其處分方ハ傷病疾病ニ依リ現役ヲ免スルノ例ニ依ル
屯田兵條例ニ依リ服役スル者ハ本令ヲ適用スルノ限ニアラス

●陸軍歸休兵條例 (明治二十二年十二月)

- 第一條 陸軍現役兵中徵兵令第十三條ニ依リ歸休ヲ命ス可キ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限リ警備隊諸兵ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル
- 第二條 歸休ヲ命ス可キ人員ハ其都度陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム
- 第三條 歸休兵ハ臨時若クハ事變ニ際シ召集ス平常ト雖モ演習ノ爲メ又ハ原隊ニ於テ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキハ之ヲ召集ス
- 第四條 歸休兵在郷中ハ本籍大隊區司令官ノ監視ニ屬ス(二十七年勅令第百八十二號ニテ本條改正)
- 第五條 歸休兵在郷中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ルモノトス
- 第六條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコト

ナシ

- 第七條 歸休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ鈔ナカラサル日數間ニ歸郷シ着後七日以内ニ市町村長(東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ倣フ)ヲ經テ監視區長ニ届出可シ
退營後衛戍地若クハ其他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキハ本條ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地監視區長ニ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ(同上法令ニテ本項追加)
- 第八條 歸休兵在郷中傷病若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診察證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ
- 第九條 歸休兵在郷中兵籍上異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ
- 第十條 歸休在郷中七日以上ノ旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ其由ヲ監視區長ニ届出可シ
前項ノ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地監視區長ニ届出

可シ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ(上)

第十一條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス

對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此場合ニ於テハ第十條第三項ノ例ニ依ル可シ(同上法令ニテ本條改正)

第十二條 歸休兵在郷中死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主(本人戸主ナレハ家族)ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但監視區外ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出ヘシ(同上)

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ(同上法令ニテ追加)

第十三條 歸休兵在郷中重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其戸主(本人戸主ナレハ家族)ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ(同上)

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ(同上法令ニテ追加)

第十四條 歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痕疾病其他ノ事故ニテ歸營シ難キトキハ傷痕疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ニ届出可シ(同上)

第十五條 本條例中兵ト稱スルハ徵兵令ニ依リ徵集シタル雜卒職工ヲ包含ス

第十六條 警備隊諸兵ニシテ定期退營シ又ハ輜重輸卒ニシテ退營シ尙ホ現役中ニ在ル者ハ總テ本條例ニ依ル

第十七條 第七條第一項及第二項第九條第十條第一項及第十一條第二項第十二條第十三條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(同上)

第十八條 第七條第十條ノ通報人ニシテ相當ノ事由ナク召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者及第十一條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十九條 本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官監視區長トアルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

附 則

第二十條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ長務ハ戸長ニ於テ之ヲ行フ可シ

●陸軍軍人傷痕疾病ニ罹リ現役服役在職ニ堪ヘサル者

取扱方 (明治二十二年七月陸軍省達第百十二號)

陸軍軍人ニシテ傷痕疾病ニ罹リ現役常備後備役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル者ノ取扱手續左ノ通定ム(廿六年陸軍省達第十一號ヲ以テ本達文改正)

第四類 第一章 陸軍軍人傷痕疾病ニ罹リ現役服役在職ニ堪ヘサル者

但明治十三年(五月)達乙第三十四號達隊外下士免官願云々ヲ廢ス

- 一 陸軍軍人傷痍疾病ニ依リ准士官以上ニ在テ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサルモ下士以下ニ在テ現役常備後備役若クハ永久服役ニ堪ヘサルモハ軍醫長ノ審査若クハ判定シタル陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ニ依リ准士官以上ハ陸軍大臣成規ニ依リ之ヲ區處シ下士以下ハ兵役免除權ヲ有スル長官之ヲ區處ス但陸海軍將校分限令第四條第七項ノ職務ニ因リ代員ヲ必要トスル場合ノモノハ此限ニアラス(上同)
- 二 陸軍醫官ハ前項ニ依リ現役常備後備役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサルモノト診斷シタルトキハ診斷證書ヲ製シ之ニ病床日誌ノ寫(病床日誌ヲ作ラサルトキハ病歷書)ヲ添ヘテ患者ノ所屬長ニ出スヘシ但准士官以上ニ在テハ該書類ヲ本人ニ附與シ本人ハ自己ノ願書ニ之ヲ添ヘテ所屬長ニ出スモノトス(上同)
- 三 陸軍醫官ノ治療ヲ受ケサル准士官以上ニシテ傷痍疾病ニ依リ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサルモノト思考スルトキハ自己ノ願書ニ主治醫ノ病況書ヲ添ヘテ所屬長ニ出スヘシ但主治醫ニ於テ病況書ヲ調製シ難キ場合ニ在テハ陸軍醫官ノ診斷ヲ受クヘシ
- 四 陸軍醫官アラサル地ノ下士以下ニシテ傷痍疾病ニ依リ現役常備後備役若クハ永久服役ニ堪ヘサルモノト其所屬長ニ於テ察シタルモ本人ヨリ主治醫ノ病況書ヲ出サシムヘシ(上同)
- 五 所屬長ニ於テ第二項第三項第四項ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ニ具申書(第四項ノ所屬

長ハ其服役常備後備若クハ永久服役ニ堪ヘサル見込ヲ記入ス)ヲ添ヘテ近衛都督又ハ師團長ニ呈スヘシ而シテ近衛都督又ハ師團長ハ其書類ヲ當該軍醫長ニ下付シテ審査(判定)セシメタル後第一項ノ取扱ヲナスヘシ但衛生部下士以下ニ係ルモノハ所屬部隊長ヨリ其書類ヲ當該軍醫長ニ移シ軍醫長ハ之ヲ審査(判定)シタル後醫務局長ニ具申スルモノトス(上同)

各官廳ニ在テハ其長官諸學校ニ在テハ校(所)長(團)長、憲兵隊ハ隊長、陸地測量部砲(工)兵會議ハ部(議)長ヨリ該書類ヲ當該軍醫長ニ移シテ其審査(判定)ヲ經タル後准士官以上ハ順序ヲ以テ陸軍大臣ニ下士以下ハ兵役免除權ヲ有スル長官ニ稟申スヘシ

陸軍省參謀本部監軍部ニ在テハ所屬長ヨリ其書類ヲ第一師團軍醫長(近衛部隊附醫官ノ製シタルモノハ近衛軍醫長、醫務局醫官ノ製シタルモノハ醫務局次長)ニ移シテ審査(判定)ヲ經タル後准士官以上ハ陸軍省ニ在テハ陸軍大臣ハ參謀本部ニ在テハ參謀總長ハ監軍部ニ在テハ監部ハ各順序ヲ經テ進呈シ又總長監軍ハ更ニ之ヲ陸軍大臣ニ移牒ス其下士以下ハ所屬長ヨリ兵役免除權ヲ有スル長官ニ稟申スヘシ

軍醫長ニシテ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサル者アルトキハ近衛都督師團長ハ本人ヨリ出シタル書類ニ稟申書ヲ添ヘテ陸軍大臣ニ呈スヘシ大臣ハ醫務局長ヲシテ之ヲ審査セシム

六 軍醫長ハ診斷證書ヲ病床日誌又ハ病歷書ニ照シテ審査シ適當ト認メタルトキハ之ヲ證

明シ不適當ト認メタルトキハ意見書ヲ附シテ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ致シ而シテ其各官ハ軍醫長ニ於テ適當ト證明シタルモノハ第五項ノ手續ヲナシ不適當ト認メタルモノハ之ヲ所屬長ニ返付シ再ヒ醫官ヲシテ診斷セシムヘシ

軍醫長ハ病況書ニ就キ其判定證書ヲ作リタルトキハ之ヲ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ致スヘシ而シテ其各官ハ該判定證書ニ依リテ現役常備後備役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル者ハ第五項ノ手續ヲナシ然ラサルモノハ其趣ヲ示シテ書類ヲ返付スヘシ(同上)

軍醫長ハ病況書ヲ判定スルニ方リ陸軍醫官ノ診斷ヲ必要ト認ムルトキハ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ其意見ヲ申告スヘシ而シテ其各官ハ本人ヲ陸軍醫官(在職者ヲ云フ)ノ所在地ニ呼出シ又ハ陸軍醫官ノ本人所在地ニ派遣セシメテ診察セシムヘシ

七 陸軍病院入院患者ノ診斷證書ハ病院長參坐ノ上主任ノ醫官之ヲ調製スヘシ但病院長主任タルトキハ參座ヲ要セス

入院セサル患者ノ診斷證書ハ主任ノ醫官一名ニテ之ヲ調製スト雖モ若シ高級又ハ古參ノ醫官ト協議シタル場合ニ在テハ該醫官ト調製スヘシ而シテ該高級古參ノ醫官ハ參座ト肩書シテ職官氏名ヲ署シテ捺印スルモノトス

休職停職豫備後備又ハ退役ノ醫官之ヲ調製スルキハ其府縣國郡市町村番地ヲ肩書シテ

官氏名ヲ署シ捺印スヘシ病歴書モ亦同シ

診斷證書ヲ調製スル醫官ハ一等軍醫以上タルヘシ但其不在ノ場合ニ在テハ二三等軍醫之ヲ調製スルコトヲ得

八 病床日誌病歴書ハ診斷證書ヲ審查スル爲メニ之ヲ要ス故ニ診斷證書ヲ審查シタル後ハ之ヲ軍醫部(醫務局長次長ノ審查ニ係ルモノハ醫務局)ニ留メ置クヘシ

九 診斷證書病況判定證書並病歴書病況書書式ハ左ノ如シ(書式ハ一ノ文例ヲ示ス故ニ病況書ノ如キハ原因經過療法並現症ヲ殊ニ詳記スヘシ)但病況書ノ書式ハ患者ヨリ主治醫ニ示スヘシ(書式ハ總テ略ス)

●陸軍歸休兵豫備役後備軍醫員召集延期準則 (明治二十年六月 陸軍省訓令第七號)

陸軍歸休兵並ニ豫備役後備役軍醫員兵員ニシテ定時演習召集ニ際シ父母ノ重病或ハ死亡等ノ故ヲ以テ召集ノ延期ヲ願フ者ハ二週日以内延期スルコトヲ得其準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 豫備役後備軍醫員ハ後備司令官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ 一 歸休兵並ニ豫備役後備役兵員ハ兵長ノ與書證明ヲ以テ府縣駐在官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ 一 診斷書又ハ證明書ヲ願書ニ添ヘ差出サシムヘシ 一 前諸項ニ掲グルモノ、外實際ノ取扱ハ鎮臺廳府縣ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ

●陸軍豫備兵定時演習召集方 (明治二十三年一月 陸軍省令第二號)

第四類 第一章 陸軍豫備兵定時演習召集方

陸軍豫備兵ノ定時演習召集ハ陸軍召集條例ニ依リ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集團隊ヲ戰時定員ニ充足シ殘餘ノ者ハ召集不致候處本年ヨリ在役第二年第四年ノ者ヲ召集ス但工兵中電信通信術同建築術卒業證書ヲ所持スル者及機動演習ニ當リ兵員ノ不足ヲ要スル場合ハ其年級ニ拘ハラズ召集スルコトアルヘシ

第二章 憲兵

●憲兵條例

(明治三十一年十一月二十九日)
公布勅令第三百三十七號

第一章 總則

第一條 憲兵ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ主トシテ軍事警察ヲ掌リ兼テ行政警察、司法警察ヲ掌ル臺灣ニ在テハ軍事警察、行政警察、司法警察ヲ掌ル

第二條 憲兵ハ其ノ職務ノ執行ニ付軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣行政警察ニ係ルモノハ内務大臣司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ノ指揮ヲ承ク臺灣ニ於ケル軍事警察、行政警察、司法警察ニ係ルモノハ臺灣總督ノ指揮ヲ承ク

第三條 憲兵ハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ警視總監、北海道廳長官、府縣知事東京府知事ヲ除ク及檢事ノ指示ヲ承ク但シ臺灣ニ於ケル行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ縣知事、廳長及法院檢察官ノ指示ヲ承ク

憲兵ハ臺灣ニ於ケル地方守備ニ關スル軍事警察ニ付テハ臺灣守備混成旅團長、要塞司令官及守備隊長ノ指示ヲ承ク

七十

第四條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ相當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

- 一 暴行ヲ受クルトキ
- 二 其ノ占守スル土地若ハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第二章 配置、職員

第六條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各憲兵隊管區ニ一憲兵隊ヲ配置ス

憲兵隊ニハ其ノ管區ノ番號ヲ附ス

憲兵隊管區ノ區域ハ別表ニ依ル

第七條 憲兵隊本部ハ各師團司令部及各臺灣守備混成旅團司令部所在地ニ之ヲ置ク

第八條 各憲兵隊管區ヲ數箇ノ憲兵警察區ニ分チ各警察區ニ一憲兵分隊ヲ置ク但シ臺灣ニ在テハ憲兵分隊ノ一部ヲ分駐セシメテ支部ヲ置キ其ノ管轄區域ヲ特ニ憲兵警察區ト爲スコトヲ得

憲兵隊分隊並憲兵警察區ニハ憲兵分隊本部所在ノ地名ヲ冠ス但シ分隊支部ヲ置キタル場合ニ於テハ支部及其ノ警察區ニ支部所在ノ地名ヲ冠ス

憲兵警察區ノ區域及憲兵分隊ノ配置ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定

第九條 憲兵分隊本部ハ衛戍地及樞要ノ地ニ之ヲ置ク

第十條 憲兵ノ職員左ノ如シ

憲兵司令部

憲兵副官

軍吏

少將若ハ憲兵大佐

憲兵少佐、大、中尉

憲兵下士、軍吏部下士若ハ判任文官

第一乃至第十二憲兵隊

本部

憲兵隊長

憲兵隊副官

軍吏

憲兵中、少佐、大尉

憲兵中尉

憲兵下士、軍吏部下士

分隊

本部

憲兵分隊長

憲兵大、中尉

憲兵分隊副長
書記

憲兵中、少尉
憲兵下士

伍

憲兵伍長

憲兵下士、上等兵

憲兵曹長、一等軍曹

第十三乃至第十五憲兵隊

本部

憲兵隊長

憲兵隊副官

軍醫

獸醫

軍吏

書記

看護長

踏鐵工(下)長

憲兵下士、軍吏部下士

憲兵大、中佐

憲兵大、中尉

分隊

本部

第四類 第二章 憲兵條例

憲兵分隊長 憲兵大、中尉
憲兵分隊副長 憲兵中、少尉

軍醫

書記

憲兵下士

看護長

伍

憲兵伍長

憲兵下士

憲兵上等兵

第十一條 憲兵下士、上等兵四名乃至八名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス

必要ニ依リ伍ニ乘馬ヲ附ス

第十二條 陸軍大臣及臺灣總督ハ必要ニ際シ一時憲兵隊ノ一部ヲ其ノ管區外ニ派遣スルコトヲ得

第十三條 憲兵司令官ハ各憲兵警察區内（臺灣ヲ除ク）ニ於テ憲兵ノ常時巡察スヘキ地域ヲ定ムヘシ
臨時急要ノ場合ニ際シテハ憲兵隊長ハ憲兵ヲ前項地域外ニ使用スルコトヲ得但シ其ノ警察區域外ニ使用スルコトヲ得ス

第三章 職務

第十四條 憲兵司令官ハ各憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十五條 憲兵司令官ハ憲兵隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲スヘシ

第十六條 憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十八條 憲兵分隊副長ハ分隊長ヲ輔佐ス

憲兵分隊副長ハ支部ノ長ト爲リ分隊長統轄ノ下ニ在テ分隊ノ一部ヲ指揮スルコトアルヘシ

第十九條 憲兵伍長ハ部下ノ下士上等兵ノ勤務ヲ指示監督スヘシ

第二十條 憲兵ノ職務ニ係ル規定ハ各主管大臣之ヲ定ム但シ臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定ム

附 則

第二十一條 當分ノ内憲兵隊長、副官、分隊長、分隊副長ハ豫備役、後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二十二條 上等伍長タル者ニシテ本令施行ノ際伍長ヲ命セラル者ノ身分取扱及諸給與ハ陸軍服役條例第五十四條第二ニ掲グル服役期限滿ツル迄若ハ既ニ許可ヲ得タル再服役期限滿ツル迄從前ノ規定ニ依ル

第二十三條 本令ハ明治三十一年十二月一日ヨリ施行ス

憲兵隊管區表

管區名

區域

第一憲兵隊管區

近衛師管、第一師管

第四類 第二章 憲兵條例

- 第二憲兵隊管區
 - 第三憲兵隊管區
 - 第四憲兵隊管區
 - 第五憲兵隊管區
 - 第六憲兵隊管區
 - 第七憲兵隊管區
 - 第八憲兵隊管區
 - 第九憲兵隊管區
 - 第十憲兵隊管區
 - 第十一憲兵隊管區
 - 第十二憲兵隊管區
 - 第十三憲兵隊管區
 - 第十四憲兵隊管區
 - 第十五憲兵隊管區
- 第二師管
 - 第三師管
 - 第四師管
 - 第五師管
 - 第六師管
 - 第七師管
 - 第八師管
 - 第九師管
 - 第十師管
 - 第十一師管
 - 第十二師管
- 臺灣守備混成第一旅團守備管區
 - 臺灣守備混成第二旅團守備管區
 - 臺灣守備混成第三旅團守備管區

第三章 海軍

●海軍志願兵條例 (明治三十二年三月勅令第百七十七號)

- 第一條 海軍志願兵トハ海軍兵役ニ服センコトヲ志願シ許可ヲ得海軍志願兵籍ニ編入セシメラル者ヲ謂フ
- 第二條 海軍志願兵トシテ徵募スヘキ卒ノ種別ハ左ノ如シ
水兵、信號兵、軍樂生、木工、機關兵、鍛冶、看護、主廚
- 第三條 信號兵ハ所要ニ應シ水兵中ヨリ適當ノ者ヲ選ミ之ニ轉セシム其ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第四條 志願兵ノ徵募ハ其ノ年ニ於テ左ノ各項ニ適合スル者ニ就キ之ヲ行フ
一 水兵機關兵ハ十七年以上二十一年未滿
二 木工、鍛冶、看護、主廚ハ十七年以上二十六年未滿
三 軍樂生ハ十六年以上十九年未滿
- 第五條 左ニ掲グルル者ハ志願兵ノ徵募ニ應スルコトヲ得ス
一 陸軍ノ豫備役後備役及第一補充兵役ニ在ル者
二 徵兵令第二十八條ニ當ル者
三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
四 刑事被告人
五 復讐ヲ得サル家資ヲ散者破産者若ハ其ノ相續人
六 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第四節 第三章 海軍志願兵條例

第六條 軍樂生ニシテ入團後三箇月ヲ經過シ技藝發達ノ目途ナキ者ハ軍樂生ヲ免ス

第七條 志願兵ノ服役ハ海軍下士卒服役條例ニ依ル

第八條 志願兵現役中ハ家族アル者ニ限り扶助金トシテ一箇月金八拾五錢ヲ其ノ家族ニ給ス但シ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ間支給ヲ停止ス

一 擅ニ艦船團其ノ他各部ヲ離レ若ハ職役ヲ離レ若ハ允許ヲ得テ地方ニ趣キ故ナク歸著ノ期限ニ後レ二箇月ヲ過キタルトキハ其ノ翌月ヨリ自首若ハ捕縛ノ前月マテ

二 禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ翌月ヨリ刑期滿限ノ前月マテ

第九條 海軍大臣ハ志願兵徵募ノ爲海軍志願兵徵募區未定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十條 海軍大臣ハ毎年志願兵トシテ採用スヘキ人員ヲ定メ鎮守府ヲシテ徵募セシム

附 則

第十一條 本條例施行ノ際現ニ扶助金一箇月金壹圓七拾五錢ヲ受クル志願兵ノ家族ニハ其ノ現役滿期ノ月迄同金額ヲ給ス但シ再服役ヲ許シタルトキハ再服役ノ翌月ヨリ第八條ノ金額ヲ支給ス

第十二條 海軍志願兵徵募ニ關スル細則及家族扶助金支給ニ關スル細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十三條 本條例ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治三十一年勅令第八十三號海軍志願兵徵募規則ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

●海軍志願兵徵募規則 (明治三十二年五月勅令第六十八號)

第一條 海軍兵役ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ服役セシム

第二條 志願兵ノ職名ハ左ノ如シ

水兵、信號兵、軍樂生、水雷夫、火夫、工夫、木工、鍛冶、看病夫、厨夫

第三條 志願兵ニ徵募スルトキノ年齡定限ハ左ノ如シ

一 水兵、信號兵、火夫ハ滿十七年以上二十一年未滿

二 木工、鍛冶、看病夫、厨夫ハ滿十七年以上二十六年未滿

三 水雷夫、工夫ハ滿十七年以上三十二年未滿

四 軍樂生ハ滿十四年以上十七年未滿

第四條 左ニ掲クル者ハ志願兵タルコトヲ許サス

一 陸軍ノ豫備役後備役ニ在ル者

二 徵兵令第二十八條ニ當ル者

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者

四 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者

五 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第五條 志願兵ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス

現役ハ八箇年ニシテ入營ノ日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之

ニ服ス

八十

水雷夫ハ前項ニ依ラス十二箇年現役ニ服セシメ豫備役ニ服セシメス但第一年ニ於テハ六箇月以内第二年ヨリ十一箇年間ハ毎年二箇月以内在營セシメ其餘ノ時日ハ歸休セシム

第六條 服役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其ノ刑

期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第七條 服役期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ學アルトキ

若クハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアルヘシ

第八條 豫備役ハ戰時或ハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス平時ニ在テハ演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ但餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助投及收入役ハ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第九條 服役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但現役中疾病若クハ傷痕ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ滿十二箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム其永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第十條 水雷夫、工夫ヲ除クノ外志願兵ノ現役中ハ家族アル者ニ限り其扶助金トシテ一日金貳錢七厘ヲ給ス

第十一條 志願兵徵募ノ爲メ別表ノ如ク海軍志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十二條 志願兵徵募ノ人員ハ毎年海軍大臣之ヲ定メ各徵募區ニ配當シ鎮守府ヲシテ徵募セシム

附 則

第十三條 舊規則ニ依リ徵募シタル者ノ服役年期ハ舊規則ニ依ル

第十四條 舊規則ニ依リ一箇月金壹圓七拾五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月以後其現役滿期マナ一日金七錢五厘ノ家族扶助金ヲ給ス(別表ハ略ス)

●海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令 (明治二十七年七月)

(海軍省令第七號)

第一章 總則

第一條 海軍豫備役後備役下士卒臨時召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ鎮守府司令長官ヲシテ行ハシムルモノトス

第二條 臨時召集ハ時トシテ同時ニ全豫備役若クハ全後備役下士卒ヲ召集スルコトナク時ノ形勢ニ應シ所要ノ人員ノミヲ召集スルコトアルヘシ但此ノ場合ニ於テハ特ニ明治何年何月何日以後ニ現役ヲ離レタル者ヲ召集スヘキノ令アルモノトス

第三條 臨時召集地ハ常ニ各豫備役後備役下士卒ノ兵籍ヲ管スル鎮守府海兵團トス

第四條 臨時召集ニハ召集令狀ヲ發スルモノトス

第五條 臨時召集ノ發令アリダルトキハ各當事者ハ晝夜ヲ分タス其ノ事務ヲ處理スヘキモノ

第四類 第三章 海軍豫備役下士卒臨時召集令

八十一

第二章 召集ニ關スル平常ノ準備

第六條 召集令狀(様式第一)ハ其ノ封筒(様式第二)及領收證(様式第三)ト共ニ海兵團ニ於テ之ヲ調製シ豫メ之ヲ島廳郡區市役所ニ送附シ島廳郡區市役所ニ於テハ之ヲ海軍豫備役(後備役)下士(卒)名簿ニ照シ合セ其ノ異同ヲ確メ召集ノ發令アル迄之ヲ保管シ且豫備役後備役下士卒身上ニ異動アル毎ニ適當ノ訂正ヲ施スヘシ

第七條 海兵團ニ於テハ前條ノ召集令狀ノ外ニ尙ホ旅費交附時日證票(様式第四)ヲ作り召集令狀ト共ニ島廳郡區市役所ニ送附シ置クヘシ

旅費交附時日證票ハ實際ノ旅費ヲ交附シタル時日ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニシテ島司郡長及市ノ收稅署長ハ各自ニ旅費ヲ交附スルト同時ニ該票ニ其ノ月日時ヲ記入スヘキモノトス

第八條 豫備役後備役下士卒他ノ島郡區市ニ轉籍シタルトキ及海軍省令第六號ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ者ノ召集令狀及旅費交附時日證票等ハ其ノ都度速ニ之ヲ轉籍若クハ應召地ノ島廳郡區市役所ニ轉送スヘシ

第九條 北海道廳及各府縣ニ於テハ召集ニ應スル豫備役後備役下士卒休泊ノ爲メニ豫メ鎮守府ニ到ル沿道便宜ノ地ニ於テ海軍軍用旅舎ヲ選定シ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ但本條ノ旅舎ヲ選定スルハ約束ヲ以テ定ムルモノトス

第十條 豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參著スルトキ之ニ被服、食器ヲ給與シ私服ヲ格納シ補充隊ヲ編制シ又ハ直ニ兵員ヲ要スル艦船隊廳等ニ勤務ヲ命スル等ノ方法ハ豫メ鎮守府ニ於テ之ヲ定メ事ニ當テ混雜ノ憂ナキヲ期スヘシ

第十一條 臨時召集ニ關セル達文、通知書等(第十三條第十四條等參看)ハ各當事者ニ於テ豫メ簡明ナル文案(電報案共)ヲ定メ且成ルヘク之ヲ關係ノ官廳役場等ニ通知シ置クヘシ

第十二條 島廳郡區市役所ニ於テハ管地内在籍ノ豫備役若クハ後備役下士卒ノ人員、地形等ニ應シ召集令狀ヲ配達スルニ最モ便宜且迅速ナル方法ヲ豫定シ置クヘシ

第三章 召集手續

第十三條 豫備役若クハ後備役下士卒臨時召集ノ令アリタルトキハ鎮守府司令長官ハ之ヲ其ノ部下ニ達シ且同時ニ北海道長官、府縣知事、憲兵司令官(東京外ニ於テハ憲兵隊長以下皆同シ)警視總監、大審院長、控訴院長、地方裁判所長、檢事總長、檢事長及檢事正ニ通知スヘシ

第十四條 北海道廳長官、府縣知事ハ前條ノ通知ニ從ヒ之ヲ島司郡區市長及警察署長ニ達シ警視總監ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達スヘシ

第十五條 憲兵司令官ハ第十三條ノ通知警察署長ハ第十四條ノ達ニ從ヒ各部下ノ憲兵(警部、巡查ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ但憲兵隊ヲ置ケル府縣ニ於テハ憲兵主トシテ之ヲ擔當シ警部、巡查ハ之ヲ補助シ憲兵隊ヲ置カサル府縣ニ於テハ警部、巡查專ラ之ヲ擔任スヘシ

- 一 召集ニ應スヘキ各豫備役若クハ後備役下士卒ノ家ニ到リ遲滞ナク發足セシヤ否ヤヲ調査シ若シ故ナク猶豫スル者アルトキハ速ニ發足ヲ督促スルコト
 - 二 船舶所有主ノ家若クハ會社等ニ到リ港内碇泊ノ船舶乗組員中ニ豫備役若クハ後備役下士卒ノ有無ヲ質シ若シ其ノ之レ有ルヲ知ラハ其ノ船舶ニ到リ之カ發足ヲ督促スルコト
 - 三 豫定ノ海軍軍用旅舎ニ到リ「海軍軍用旅舎」ト記シテ表出セシムルコト
 - 四 鎮守府ニ到ル沿道ニ於ケル渡船場、停車場及波止場等ニ出張シテ旅行ノ便宜ヲ與フルコト
 - 五 旅費支給ノ場所ニ出張シ吏員ヲ補助シテ混雜ヲ制スルコト
 - 六 憲兵屯所、同分屯所、警察署、同分署、巡查派出所其ノ外公衆ノ注目シ易キ場所ニ警報(様式第五)ヲ揭示スルコト
- 第十六條 島司郡長ハ第十四條ノ達ニ從ヒ之ヲ町村長ニ達シ且召集令狀中ニ年月日旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲ記入シ之ヲ各自ニ配達シ其ノ領收證ヲ徴スヘシ
- 區長及市長ハ同條ノ達ニ從ヒ召集令狀中ニ年月日ヲ記入シ且其ノ市ノ收稅署長(府縣知事ニ於テ定メタル者)ト協議シ旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲモ記入シ(區長及市長ハ此ノ時又其ノ保管セル旅費交附時日證票ヲ收稅署長ニ交附スヘシ)之ヲ各自ニ配達シ其ノ領收證ヲ徴スヘシ
- 本條ノ召集令狀ヲ配達スルニ當テ本人其ノ家ニ在ラサルトキハ其ノ家族親族若クハ召集通

- 報人ニ之ヲ交附シテ其ノ領收證ヲ徴スヘシ
- 島廳郡區市役所町村役場ニ於テモ召集發令ニ從ヒ其ノ揭示場ニ之カ警報(様式第五)ヲ掲クヘシ
- 第十七條 召集令狀ノ領收證ハ島司郡區市長之ヲ經メ務メテ速ニ海兵團長ニ送附スヘシ
- 第十八條 豫備役若クハ後備役下士卒既ニ召集令狀ヲ領收セシトキハ二十四時間以内ニ發足シ(旅費支給ヲ始ムル時日如何ニ關セス)令狀ノ裏面ニ於テ指示サレタル旅費支給場所ニ到リテ旅費及旅費交附時日證票ヲ受領シ一日行程少クトモ十二里詰(沿道ニ汽車汽船ノ便アル者ハ里數ニ拘ラス之ニ依ルヘシ)ヲ以テ旅行シ本籍海兵團ニ參著シ召集令狀履歴表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ
- 召集地ニ到ルノ途中汽車汽船ニ事故アリ若クハ疾病川支等ノ爲メニ旅行ノ延滞ヲ生シタルトキハ其ノ事由ト延滞セル時日ヲ記シ(疾病ナレハ醫師ノ診斷書)汽車ノ事故ナレハ驛長若クハ會社、汽船ノ事故ナレハ船長、事務長若クハ會社、川支等ナレハ其ノ地ノ憲兵、警察官、島司郡區市長若クハ町村長ノ證印ヲ受ケ參著ノトキ之ヲ海兵團長ニ差出スヘシ
- 第十九條 豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參著シタルトキハ海兵團長ハ其ノ召集令狀ヲ引揚ケ履歴表ヲ點檢シ身體ヲ檢査シ終テ之ニ被服、食器ヲ給シ私服ヲ格納シ或ハ之ヲ補充隊ニ編制シ或ハ所要ノ艦船隊應ニ勤務ヲ命スル等鎮守府司令長官ニ於テ豫メ定メタル方法ニ依リ處分スヘシ但身體檢査ニ於テ到底兵役ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ其ノ兵役ヲ免

シ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ

第二十條 召集令狀配達ヲ受クルトキ豫備役若クハ後備役下士卒犯罪失踪旅行寄留等ニテ家ニ在ラス二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應セシムル能ハサル者ハ家族親族若クハ召集通報人其ノ事由ヲ詳記シ憲兵(憲兵隊ヲ置カサル府縣ニ於テハ警察官)ノ證認及市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ島司郡區市長ヲ經テ海軍團長ニ届出ツヘシ其ノ召集令狀受領後逃亡セル者アルトキモ亦同シ

本條ニ當ル下士卒ノ召集令狀ハ前項ノ届書ヲ差出ストキ之ヲ島司郡區市長ニ返附スヘシ

第二十一條 豫備役若クハ後備役下士卒召集令狀ヲ受領セルトキ傷痕疾病若クハ病後ニテ二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應スル能ハサルトキハ其ノ届書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡區市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ届出テ且其ノ召集令狀ヲ島司郡區市長ニ返附スヘシ

第二十二條 第二十條及第二十一條ノ豫備役若クハ後備役下士卒傷痕疾病快復若クハ犯罪旅行等ノ事故止ミタルトキハ速ニ島廳郡區市役所ニ到リ召集令狀ヲ受取り且其ノ指示ニ從ヒ旅費及旅費交附時日證票ヲ受取り直ニ本籍海兵團ニ參著シ召集令狀履歴表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

第二十三條 召集ノ期ニ遅ル、者アルトキハ海兵團長ハ第十七條ノ召集令狀ノ領收證第二十條第二十一條ノ届書第十八條第二項ノ旅行延滞事由書及旅費交附時日證票等ヲ參考トシテ

其ノ事由ヲ糾問シ懲罰ニ該ル者ハ直ニ之ヲ處分シ刑法ニ該ル者ハ海軍治罪法ニ從ヒ其ノ處分ヲ爲スヘシ

第二十四條 召集ノ事一應其ノ届ヲ結ヒシトキハ海兵團長ハ不參ノ人名表ヲ作り各自姓名ノ上ニ不參事由ヲ記シ鎮守府司令長官ニ差出シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

附 則

第二十五條 臨時召集ニ關スル旅費支給ノ準備、手續等ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條 本令ニ於テ市町村長トアル場合ハ市町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長トス

●海軍豫備役後備役下士卒中寄留地又ハ乘組船舶ノ船籍港等ニ於テ召集ニ應セントスル者ノ願届手續 (明治二十七年七月 海軍省令第六號)

海軍豫備役後備役下士卒中寄留地又ハ乘組船舶ノ船籍港等ニ於テ召集ニ應セントスル者ノ願届手續左ノ通定ム

- 一 豫備役及後備役下士卒他廳府縣ニ寄留スル者其ノ地ニ戶籍ヲ有スル者ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ奥書證印ヲ受ケ豫メ本籍鎮守府海兵團長ニ願出其ノ許可ヲ受クヘシ但本項ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ寫ニ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ奥書證印ヲ受ケ原籍地ノ町村長(町村制ヲ施行セサル地ハ戶長)ヲ經テ郡長ニ島嶼ハ島司ニ市制

第四類 第三條 海軍豫備役下士卒中寄留地又ハ乘組船舶ノ船籍港等ニ於テ召集ニ應セントスル者ノ願届手續 八十七

施行地ハ直ニ市長ニ北海道函館區及札幌區ハ直ニ區長ニ届出且寄留地郡長島司ニモ届出ツヘシ

本項ノ許可ヲ得タル者其ノ寄留地若シ他鎮守府志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

一 豫兵役及後備役下士卒海員トナリテ船舶乗組中ノ者ハ願ニ依リ其ノ船舶ノ船籍港若クハ平常運航ノ一港ニ兵籍ヲ有スル豫兵役後備役下士卒ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應スルコトヲ得但其ノ願届ノ手續ハ前項ノ例ニ從フヘシ

本項ノ場合ニ於テハ召集ノ令アリシトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ(陸上ニ在ル者ニシテ船舶所有者若クハ其ノ代理人等最モ良シ)本項ノ願書中ニ其ノ者ノ住所姓名ヲ記入シ其ノ者ノ捺印ヲ受クヘシ

本項ノ許可ヲ得タル者其ノ召集ニ應スル港地若シ他鎮守府ノ志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

●海軍志願兵身體檢査格例 (明治二十二年六月 海軍達省第百八十五號)

海軍志願兵身體檢査格例左ノ通定ム

第一條

海軍志願兵身體檢査ニ於テハ身體強健精神異狀ナク全身ノ發育對稱完全ニシテ海軍兵役ニ適スル者ヲ甲種合格者トシ多少其對稱ヲ失スルモ海軍兵役ニ適スル者ヲ乙種合格者トス

第二條

海軍兵役ニ適セサル疾病畸形等ハ大約左ノ如シ

一 水兵水雷夫火夫看病夫志願ノ者ニ在ツテハ身幹五尺三寸體重十四貫目胸圍二尺六寸五分胸廓擴張二寸活量百五十立方寸(百八十一立方英寸)ニ達セサル者

二 工夫志願ノ者ニ在テハ身幹五尺體重十二貫目胸圍二尺六寸胸廓擴張二寸活量百五十立方寸(百八十一立方英寸)ニ達セス木工鍛冶厨夫志願ノ者ニ在テハ身幹五尺體重十四貫目胸圍二尺六寸胸廓擴張二寸活量百五十立方寸(百八十一立方英寸)ニ達セサル者 (二十二年軍省達第四百三十五號ヲ以テ本號改正)

三 軍樂生志願ノ者滿十五年以上ニ在テハ身幹五尺體重十二貫目胸圍二尺五寸胸廓擴張一寸八分活量百四十立方寸(百六十八立方英寸)ニ達セス十五年未滿ノ者ニ在テハ身幹四尺八寸體重十貫五百目胸圍二尺三寸胸廓擴張一寸五分活量百三十立方寸(百五十六立方英寸)ニ達セサル者(同上)

四

身體發育ノ不全體力ノ薄弱慢性病或ハ負傷等ニ起因スル全身衰弱

五

全身皮膚殊ニ頭皮ノ慢性病腋臭全身微毒若クハ吸角蝨針發泡打膿等ノ痕跡甚シキ者

- 六 頭部醜形頭蓋骨折傷陷凹精神異狀白痴癱瘓麻痺言語妨害
- 七 眼目不透明ニシテ健體ノ容貌ヲ呈セサル者片眼若クハ兩眼ノ失明視力二十ノ二十二ニ達セサル者識色不全斜視淚管癭眼瞼下垂
- 八 聽官ノ遲鈍片耳又ハ兩耳聾外耳道及鼓膜ノ疾病
- 九 鼻骨鼻軟骨ノ疾病又鼻茸
- 十 咽喉口蓋扁桃腺ノ疾病不良ノ齒牙齒齦全身病ニ起因スル呼吸ノ惡臭頸腺ノ瘰癧痔瘻瘰癧性潰瘍斜頸或ハ自殺的外傷ノ癩痕
- 十一 心臟及ヒ血管ノ官能の若クハ器質的ノ疾病胸廓ノ畸形縮少鎖骨下扁平肺勞略血氣管支炎呼吸短息聲音嘶嘎慢性咳嗽其他肺結核ノ諸兆
- 十二 腹部ノ腹脹若クハ膨脹非常ノ肥滿肝脾腎ノ疾病脫腸腹輪ノ弛緩癩瘕尿道狹窄小便失禁或ハ尿道ノ瘻孔症
- 十三 片翼若クハ兩翼ノ下降セサル者精系靜脈怒張睪丸莖膜腫睪丸病
- 十四 痔瘻肛門鱗裂痔疾脫肛或ハコンヂロマタ
- 十五 四肢ノ麻痺薄弱收縮關節運轉ノ不全動脈瘤靜脈怒張手足若クハ指趾ノ畸形醜形徵性結節
- 十六 脊梁骨胸廓諸骨骨盤ノ負傷或ハ全身病ニ起因スル歪形
- 第三條 前條掲グル者ノ内輕症ナルモノニシテ氣候及ヒ職務ニ關セス少クモ十年間職務ニ堪

ユルノ目的アル者ハ合格ト爲スモ妨ケナシ又體動ニ障礙ナキ理學的ノ狀況ニシテ不適合ト爲スニ至ラサル瘦體肥體體毛過冗軀幹若クハ四肢輕度ノ不同内膝膝脚扁半足齒牙及ヒ消化器ノ異常輕症ノ精系靜脈怒張等ハ成男ニ於テ可トシ少年ニ在テハ不可トス

第四章 軍令

●戒嚴令 (明治十五年八月 布告第四十三號)

- 第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス
- 第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ
- 第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ
- 第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ
- 第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス
- 第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其他ノ司令臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得
- 第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シ

テ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

九十二

第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官長官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ大政官ニ上申ス可シ但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ彙ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條 臨戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其他ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍街ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

- 第一章 皇室ニ對スル罪
- 第二章 國事ニ關スル罪
- 第三章 靜謐ヲ害スル罪
- 第四章 信用ヲ害スル罪
- 第九章 官吏濫職ノ罪

第三編

- 第一章
 - 第一節 謀殺故殺ノ罪
 - 第二節 毆打創傷ノ罪
 - 第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪
 - 第七節 脅迫ノ罪
- 第二章
 - 第二節 強盜ノ罪
 - 第七節 放火失火ノ罪
 - 第八節 洪水ノ罪
 - 第九節 船舶ヲ覆没スル罪
 - 第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四編 第四章 風令戒

第十二條 合圍地境內ニ裁判所ナク又管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衙ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境內ニ於ケル軍衙ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス
第十四條 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

- 第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト
- 第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト
- 第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ検査シ時機ニ依リ押收スルコト

第四 郵便電報ヲ開滅シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ検査シ並ニ陸海通路ヲ停止スルコト

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スルコト

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中コ立入り検査スルコト

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖トモ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其効力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

●徵發令

(明治十五年八月) 布告第四十三號

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又一部ヲ動カニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 「陸軍卿海軍卿鎮臺司令官」及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區(會社モ之ニ準ス)ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ 府縣
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區
- 三 第十二條第四項以下及ヒ第十三條各項ハ 町村
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ 會社
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區內ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人チシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商法其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ取戻シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證書ヲ府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣芻鹽味噌油漬物梅干及ヒ薪炭
- 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
- 三 人夫
- 四 宿舍厩園及ヒ倉庫
- 五 飲水石炭
- 六 船 船

- 七 鐵道汽車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ

但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工鐵夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ綳帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

九十八

- 一 公務ニ屬スル麻署
 - 二 皇族ノ邸宅
 - 三 外國公使館領事館及其所屬館
 - 四 鐵道電信郵便使用ノ建造物
 - 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
 - 六 博物館書籍館
 - 七 病院盲啞院養兒院
 - 八 學校但臨戰合圍地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス
 - 九 製造場内機械室
- 第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ使用其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得
- 第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス廐園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廐園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲グルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個

ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲グルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第二十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送貨ヲ支辨セス

第二十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス

但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ二括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スヘシ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用済引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

- 一 西洋形船舶
 - 二 地所
- 七日間
評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ノ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ準シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲グルモノヲ買上グルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

- 一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定費
- 二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定費
- 三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定貨ヲキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額
- 第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊賃及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス
- 第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船舶及ヒ舢舨ニ充テタルモノノ賠償金額ハ第四十一條第三項ニ準ス
- 第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定貨トス
- 第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス
- 第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス
- 第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損

料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

- 第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ準ス
- 第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ參事以上參拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第五類 學事

第一章 教育勅語

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク
孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此
ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學
ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國
法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ
忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラ
ス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ奉々服膺シテ咸共德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

訓示

謹テ惟フニ我カ

天皇陛下深ク臣民ノ教育ニ軫念シタマヒ茲ニ悲ク

勅語ヲ下タシタマフ顯正職ヲ文部ニ奉シ躬重任ヲ荷ヒ日夕省思シテ橋フ所ヲ愆ランコトナ

恐ル令

勅語ヲ奉承シテ威奮措ク能ハス謹テ

勅語ノ謄本ヲ作り普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツ凡ソ教育ノ職ニ在ル者須ク常ニ聖意ヲ奉體シテ研磨薰陶ノ務ヲ怠ラサルヘク殊ニ學校ノ式日及其他便宜日時ヲ定メ生徒ヲ會集シテ勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ諄々誨告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ

第二章 學事通則

●諸學校通則(明治十九年四月勅令第十六號)

第一條 師範學校ヲ除クノ外各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設置維持スルニ足ルヘキ金額ヲ寄附シ其管理ヲ文部大臣又ハ府知事縣令ニ願出ルモノアルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣立ト同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得但寄附人ノ望ニ依リ其名稱ヲ附スルコトヲ得

第二條 寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第三條 學校幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ヘク其區町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク廢止ハ府知事縣令ニ上申スヘシ

第四條 凡教員ハ文部大臣若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ

第五條 公立學校ノ用地ハ免除タルヘシ

●地方學事通則(明治二十三年十月法律第八十九號)

(廿九年四月法律第八十一號ニテ第九條第三項及第十條第三項改正ス)

第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク

町村學校組合ニハ町村制第一百七條ヲ適用ス

第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫ス

前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第一百三條町村制第一百四條ノ規程ヲ適用ス

一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ關スル國ノ教育事務ヲ補助執行ス

第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ

其區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

第五條 町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條 市町村立學校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得

學校基本財産ハ單ニ其學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得
學校基本財産ノ設置及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

學校基本財産ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
第十條 府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財産トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財産トナスコトヲ得

府縣郡市町村町村學校組合及市町村若クハ町村學校組合内ノ區ハ歳出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財産トナス又ハ特ニ歳入ノ幾分ヲ增加シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十一條 従前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財産ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十二條 府縣制郡制市町村制ニ規定シタル内務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キテハ内務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條 本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

●修身科ノ教育方法ニ關ズル訓示 (明治二十六年八月)

(文部省訓令第九號)

第一 修身科ノ教育ニ於ケルハ神經ノ全身ニ貫通シ其ノ作用ヲ靈活ナラシムルニ同シク他

第五訓 第一章 修身科ノ教育方法ニ關スル訓示

ノ科目ト例視スヘキニアラス教員タル者ハ時ヲ以テ諄々訓告シ兒童ノ年齡及男女ノ別ニ從ヒ都鄙ノ風習各地人文ノ發達及生活ノ程度ヲ察シ又各人各個ノ性質ニ依リ精密ナル注意ヲ用キ此ノ重要ナル教科ノ目的ヲ達スルコトヲ力ムヘシ故ニ修身ノ教ハ專ラ師道ニ由テ舉ルコトヲ得ヘク一篇ノ教科書ニ依頼シ敷時間ノ誦讀ヲ以テ満足スヘキニアラサルナリ因テハ教科書ハ教員ノ資料ヲ助クル爲ニ必要トスヘシト雖地方ノ情況ニ從ヒ或ハ生徒ノ繁費ヲ省ク爲ニ尋常小學校ニ在リテハ各市町村學務委員ノ意見ニ依リ生徒用教科書ヲ用キスシテ專ラ口授法ヲ用キルコトヲ妨ケサルヘシ

第二 教科書中ニ參照トシテ引學スル所ノ古今ノ人ノ善行ハ兒童ヲシテ觀感興起セシムルノ益アリト雖或ハ矯激ニ流レ中庸ヲ失ヒ又ハ變ニ處スルノ權道ニシテ歷史上ノ美談ト爲スヘキモ以テ教育上ノ常經ト爲スヘカテサル者アリ各教員ハ教授ノ際普通教育ノ適當ナル範圍ニ注意シ及フタケ偏弊ヲ避クルヲ要ス

●兒童ノ體育及衛生ニ關スル訓示 (明治二十七年八月)

(文部省訓令第六號)

小學校ハ小學校令第一條ノ示ス所ニ依リ兒童ノ體育ニ留意シ教育ノ完成ヲ期セサルヘカラス我國舊來弓馬劍鎗ノ武藝盛ニ行ハレ體育ノ道ニ於テ缺クル所ナカリシモ維新後兵制變革ノ爲或種ノ武藝ハ其ノ必要ヲ失ヒタルト同時ニ體育ノ衰頹ヲ致セル事又教員及生徒カ學問知識ノ進歩ニ急ニシテ動モスレハ智育ノ一方ニ偏嚮セル事及社會一般ノ衛生ノ必要ヲ感スルコト未

タ深切ナラサル事是等數多ノ原因ノ爲ニ各般ノ學校ニ於ケル體育及衛生ノ方法ハ仍不完全ナルヲ免レス殊ニ小學教育ノ時ハ方ニ身體發育ノ期ニ當リ一タヒ傷害ヲ受クルトキハ其ノ患ハ終身ニ及ヒ哀ムヘキノ情況ヲ呈セントス今小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シ訓令スルコト左ノ如シ

- 一 體育ハ及フタケ活潑ナル運動ヲ課スルヲ要スヘク普通體操ニ於テモ亦兵式體操ト同ク手足及全身筋力ノ運動ヲ活潑ニシ氣血ノ代謝ヲ促スト同時ニ生徒自個ニ於テ意氣快活ヲ覺コルノ效果アラシムヘシ體操ノ弊ハ或ハ死法ニ流レ態勢ヲ整ヘ並列ヲ正スカ爲ニ許多ノ時間ヲ費シ却テ生徒ヲシテ厭倦ノ氣ヲ生セシムルニ至ル此ノ如キハ却テ體操ノ精神ヲ失フモノナリ
- 二 高等小學校男生徒ニハ兵式體操ヲ課スルノ際軍歌ヲ用キ體操ノ氣勢ヲ壯ニスルコトアルヘシ又隨意科トシテ簡單ナル器械體操ヲ授クヘシ
- 三 小學校生徒ハ活潑ナル運動ニ便スル爲ニ不得已場合ノ外學校内ニ於テハ洋服又ハ和服ヲ問ハス都テ筒袖ヲ用キシムヘシ
- 四 放課時間ニ於テ佇立閑語シテ經過スルニ終ラシムヘカラス男女トナク成ルヘク活潑ニ大氣中ニ運動スルノ遊戯ヲ誘フヘシ或ハ大聲急走嬉戲ノ態ヲ以テ生徒ノ不良事ト爲シ沈靜ヲ以テ品行點ニ加フルカ如キハ當テ得タルモノニアラス
- 五 生徒ヲシテ筆記及誦讀ヲ務メシムルハ過度ニ腦力ヲ勞セシムルモノナレハ特ニ必要ノ

場合ノ外之ヲ用キサランコトヲ要ス

八

- 六 小校學ノ課業ノ中生徒ノ尤困難ヲ感スル者ハ作文トス初級ノ生徒ニハ作文ヲ授クヘカラス若シ簡單ナル作文ヲ授クルモ此ヲ以テ試験ノ問題トスヘカラス
- 七 小學校ニ於テ施行スル所ノ試験法ハ或ハ褒貶ノ意味ニ偏シ點數ニ依リテ每期席順ヲ上下シ又ハ賞與ヲ予フル等過度ニ生徒ノ神經ヲ刺戟スルノ弊アリ此レ獨リ普通教育ノ主義ヲ誤ルノミナラス亦生徒ノ體育ヲ害スルナリ自今各學校ハ試験ニ依レル席順ノ上下ヲ廢スヘシ但各級ニ優等生若干人ヲ選拔シ以テ獎勵ヲ示スコトヲ妨ケサルヘシ
- 八 小學校ニ於テ生徒ハ喫烟スルコト及烟器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘシ
- 九 華奢安逸ハ自然ニ軟弱ヲ招クモノナリ都會ノ生徒ノ學校ニ往來スル者或ハ車ニ乘ルカ如キハ學校紀律ノ外ニ係ルト雖校長及教員ハ注意ヲ加ヘテ成ルヘク步行セシムルコトニ誘導スヘシ

●公立學校生徒ノ取締ニ關スル件

(明治二十六年五月
文部省訓令第四號)

公立學校生徒ニシテ其學校教員ニ辭職ヲ勸告シ又ハ上司ニ對シ其學校職員ノ免職轉職ヲ要請スルモノハ學校ノ紀律ニ背クモノトシ當該學校ニ於テ用キル所ノ懲罰ノ例規ニ照シ嚴重ノ處分ヲ爲スヘシ

●學校生徒ノ懲罰處分ニ關スル件

(明治二十七年二月
文部省訓令第二號)

- 一 師ヲ尊ヒ長ヲ敬フハ德育ノ一大要義ニシテ此ノ點ニ於テ闕クコトアラハ驕傲不順ノ習ヲ養ヒ學校ノ目的ニ背ク者ナリ校長及教員タル者ハ此ノ意ヲ體シテ生徒ヲ懲罰スルコトニ注意スヘシ
- 二 官立及公立學校生徒ハ三名以上合同シテ意見ヲ申立テ又ハ校長教員ニ對シ強テ而陳若ハ答辨ヲ求ムルコトヲ得サルヘシ
- 三 官立及公立學校生徒ニシテ黨ヲ結ビ教員又ハ校長ニ對シ抵抗又ハ強迫ノ舉動ヲ爲シ或ハ課業ヲ妨害シ又ハ合同闕課シ教員又ハ校長ノ戒諭ニ順ハサル者アルトキハ各學校ハ其ノ情重キ者ヲ一週間以上一學年間以内ノ停學又ハ放校ニ處スヘシ
放校ニ處セラレタル者ハ文部大臣ニ由リ情狀ヲ酌量シテ特免ヲ予フルノ外復校ヲ許サス
- 四 明治十六年十一月二日附退學ノ生徒ニ關スル達ハ之ヲ廢止ス

●文部省直轄學校學生々徒ノ取締ニ關スル件

(明治二十六年五月
文部省訓令第五號)

文部省直轄學校生徒ニシテ其學校職員ニ辭職ヲ勸告シ又ハ上司ニ對シ其學校職員ノ免職轉職ヲ要請スルモノハ學校ノ紀律ニ背クモノトシ當該學校ニ於テ用キル所ノ懲罰ノ例規ニ照シ嚴重ノ處分ヲ爲スヘシ

●放校處分ヲ爲セル生徒ノ屬籍等報告ノ件

(明治二十八年一月
文部省訓令第二號)

第五類 第二章 公立學校生徒ノ取締○文部省直轄學校生徒ノ取締ノ件

九

明治二十七年文部省訓令第二號ニ依リ放校ノ處分ヲ爲シタルトキハ其生徒ノ族籍氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

前項ノ處分ヲ受ケタル者ハ學校ノ風紀ヲ紊シ教員タルノ要素ヲ缺クコト明カナルヲ以テ教員タルコトヲ許サ、ルヘシ但處分後三箇年ヲ經過シ悔悟ノ實顯著ナル場合ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經タルトキハ此限ニ在ラス

此訓令發布前ニ於テ放校ニ處セラレタル生徒ニ對シテハ本令ヲ適用スルノ限ニ在ラス

●實業教育費國庫補助法 (明治二十七年六月 法律第二十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル實業教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實業教育費國庫補助法

- 第一條 實業教育ヲ獎勵スル爲ニ國庫ハ毎年度金拾五萬圓ヲ支出シテ其ノ費用ヲ補助スヘシ
- 第二條 公立ノ工業農業商業學校、徒弟學校及實業補習學校ニシテ實業ノ教育ニ效益アリト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ學校ニ補助金ヲ交付スヘシ
地方官廳ノ認可ヲ經タル農工商組合ニ於テ設立シタル實業學校ハ文部大臣ノ特別ノ認定ニ依リ前項ニ準スルコトヲ得
- 第三條 各學校ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル
- 第四條 補助ヲ受クヘキ學校ハ文部大臣ノ認可シタル學則ニ依リ及同大臣ノ定ムル必要ノ條

件ヲ充タスモノニ限ル

第五條 此ノ法律ニ依リ補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ補助年期間其ノ學校經費ヲ繼續支出スルノ義務アルモノトス

第六條 各學校ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後必要ニ依リ仍之ヲ繼續スルコトヲ得但シ文部大臣ニ於テ學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ第四條其ノ他文部大臣ノ定ムル所ノ規則ニ違背シタルトキ又ハ第五條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖補助ヲ廢止若ハ停止スルコトヲ得

第七條 第二條ニ掲グル學校ノ教員ヲ養成スルノ必要アルトキハ文部大臣ハ第一條ニ掲グル金額ヨリ十分ノ一以內ヲ支出シ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得

第八條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第九條 此ノ法律ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

●實業教育費國庫補助法施行規則 (明治二十七年六月 文部省令第十四號)

第一條 實業教育費國庫補助法ニ依リ補助ヲ受ケントスルトキハ府縣立學校ニ在リテハ府縣會ノ議決ヲ經地方長官ニ於テ其ノ他ノ學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

- 一 學校ノ名稱位置
 - 二 學則(入學ノ程度、學科課程、教授日數、教科書ヲ用キルトキハ其ノ書名)
 - 三 設備(校舍、校地、校具)
 - 四 生徒定員及現員
 - 五 職員履歷書
 - 六 經費豫算ノ細目並學校ノ諸收入
 - 七 學校設立以來ノ沿革及既往三箇年ノ收支計算
 - 八 農工商組合ニ係ルモノハ組合規約及其ノ沿革
- 新ニ學校ヲ設立セントスル場合ニ於テ未タ職員ヲ定メサル者ハ其ノ履歷書ヲ具スルヲ要セ
ス設備ハ其ノ豫定書ヲ附スヘシ
- 第二條 補助ヲ受クヘキ學校ハ左ノ條件ニ依ル
- 一 明治二十三年十月三十日勅語ノ趣旨ニ基キ教育ノ精神ヲ誤ラサルコト
 - 二 修業年限ハ二箇年以上タルコト
 - 三 工業農業商業學校ノ每週教授時間ハ二十七時以上簡易農學校簡易商業學校徒弟學校實業補習學校ノ每週教授時間ハ十二時以上タルコト
 - 四 工業農業商業學校ノ入學者ノ資格ハ尋常中學校第二級卒業又ハ修業年限四箇年ノ高等小學校卒業以上ニ於テ簡易農學校簡易商業學校徒弟學校實業補習學校ハ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムルコト

- 五 工業農業商業學校ハ生徒百名以上、徒弟學校及實業補習學校ハ五十名以上ヲ教授シ得ヘキ設備ヲ爲スコト
- 六 授業料ヲ徴收スル場合ニ於テ其ノ額及徴收方法ハ文部大臣ノ認可ヲ受クルコト
- 第三條 補助ヲ受クル學校ノ經費豫算ハ每會計年度前三十日ヲ限リ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ功程及收支計算ハ每會計年度經過後六十日以内ニ文部大臣ニ報告スヘシ
- 第四條 各學校ニ交付スル補助金ハ每會計年度豫算ヨリ其ノ學校ノ授業料及雜收入ヲ以テ支辨スルコトヲ得ル金額ヲ控除シタル經費ノ半額以内トス但學校ノ基本財産ヨリ生スル收入ハ控除スルノ限ニアラス
- 第五條 監督官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ吏員ヲ派シテ補助ヲ受クル學校ノ帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルハシ
- 第六條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ凡テ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第一條ノ申請書ヲ進達スル場合ニ於テ地方長官ハ精査ノ上詳細ナル意見ヲ附シ併セテ其ノ地方實業ノ情況ヲ具申スヘシ
- 第七條 補助金交付ノ手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

●華族就學規則 (明治二十五年八月
宮内省達甲第五號)

明治二十年一月宮内省達第一號華族就學規則左ノ通改正ス

第一章 通則

第一條 本則ハ華族學齡男子ノ教育ヲ規定スルモノトス

第二條 學齡ハ滿六年以上滿二十四年以下トス

第三條 華族ノ男子ハ學齡ニ於テ少クモ學習院中等學科又ハ之ニ相當スヘキ學科ヲ終了スルヲ要ス

第四條 華族學齡男子ノ本則ニ關スル學事ニ付テハ其ノ戶主又ハ後見人責任ヲ負フヘキモノトス

第五條 本則ニ關スル願届ハ總テ戶主又ハ後見人ヨリ差出スヘキモノトス
但シ疾病傷痕等ニ原由スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二章 修學

第六條 學齡者ハ學習院ニ入り修學スヘキモノトス

第七條 東京府外ニ住居スル十四年未滿ノ學齡者及東京府内ニ住居スル十年未滿ノ學齡者ニシテ學習院ニ入學シ難キ事由アルルハ便宜ノ學校ニ就キ普通教育ヲ受クヘシ
本條ノ場合ニ於テハ其ノ事由及學校ノ位置名稱入學ノ年月日ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ

第八條 第七條ノ年齡ヲ過クルノ後尙ホ學習院ニ入學シ難キ者ハ其ノ事由ヲ詳記シ年月ヲ豫期シ宗族親屬ノ連署ヲ以テ宮内大臣ニ延期ノ認可ヲ請フヘシ

第九條 第八條ニ依リ學習院入學延期ヲ許サレタル者ハ疾病ニ原由スル者ノ外仍ホ其ノ年齡

學力ニ應シ總テ普通教育ヲ受クヘシ若シ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ其ノ事由及修學ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 疾病傷痕ニ由リ一時就學ノ延期ヲ要スル者アルルハ爵位局長ニ届出ツヘシ
癱疾不具又ハ體質虛弱ニシテ學齡ニ至リ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ體質ニ適當ナル學業ヲ修メシムルトキハ其ノ方法ヲ詳記シ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十一條 學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ陸軍各兵科現役士官候補生又ハ陸海軍所轄各學校ノ學生タラント欲シ其ノ入學試験ニ合格シタル者ハ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 學習院初等學科ヲ修了シ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ專門ノ學校ニ入ラント欲スル者ハ其ノ學校名稱學科ノ種類等ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十三條 第三條ノ學科程度ヲ修了シタル者ニシテ海外留學ヲ爲サント欲スルトキハ其ノ國名地名及修業セント欲スル學科ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ
但シ第三條ノ學科程度ヲ修了セスシテ留學ヲ必要トスル特別ノ事由アル者ニハ特ニ許可ヲ與フルコトアルヘシ

第十四條 第十一條第十二條及第十三條ノ目的ヲ達スルニ便宜ナル豫備ノ修學ヲ爲サント欲

スル者ハ其ノ年月ヲ豫期シ修學ノ場所及其ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ
但シ學習院初等學科又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニアラサレハ之ヲ許サ
ス

第三章 廢學及退學

第十五條 疾病傷痍ニ由リ成學ノ目的ナク廢學セント欲スル者アルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ
請フヘシ

第十六條 官吏又ハ公吏ニ任用セラレ修學ノ餘暇ナク廢學セントスル者アルトキハ爵位局長
ニ届出ツヘシ

第十七條 學齡中ニ於テ陸海軍學校又ハ其ノ他ノ專門學科ヲ卒業シタル者若クハ學齡滿期ニ
至リ廢學スル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十八條 學齡中ニ於テ第三條ノ學科程度ヲ修了シタル後止ムヲ得サル事由アリテ廢學セン
トスル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ
但シ後見人ヨリ願出ツル場合若クハ成年ニ達シタル戸主廢學セントスル場合ハ宗族親屬
ノ連署ヲ要ス

第十九條 戸主又ハ嫡長子孫ヲ除クノ外第三條ノ學科程度ヲ修了スルニ至ラスシテ後來自活
ノ計ヲ爲サンカ爲メ廢學セサルヲ得サル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宗族親屬ノ連署ヲ
以テ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ

但シ學習院初等學科又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニアラサレハ之ヲ許サ
ス

第二十條 第十一條及第十二條ニ依リ修學中半途ニシテ退學シタル者アルトキハ其ノ事由ノ
詳記シ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第二十一條 學習院學則第十五條ニ依リ事故ヲ以テ退學シタル者及陸海軍學校又ハ其ノ他ノ
專門學校ニ於テ修學中半途ニシテ退學シタル者若クハ海外留學中半途ニシテ歸朝シタル者
ハ尙ホ本則ノ規定ニ依リ修學ヲナスヘキモノトス

第四章 督責

第二十二條 本則ノ規定ニ違ハサル者アルトキハ宮内大臣之ヲ督責ス

第二十三條 第二十二條ニ依リ督責ヲ加フルモ尙ホ之ニ從ハサル者アルトキハ宮内大臣ハ勅
許ヲ經テ宮中ノ禮遇ヲ停止スルコトアルヘシ

第五章 雜則

第二十四條 學習院外ニ於テ修學中ノ者三箇月以上引續キ休學セサルヲ得サル事故アルトキ
ハ其ノ事由ヲ詳記シ爵位局長ニ届出ツヘシ

第二十五條 學習院外ニ於テ修學スル者ノ毎年一回學年ノ終ニ於テ其ノ修業シタル成績ヲ記
載シ學校長若クハ教師ノ證明ヲ求メ爵位局長ニ届出ツヘシ
但シ海外留學ノ者亦本條ノ例ニ準ス

第二十六條 學習院學生、轉學退學休學ニ關スル事項ハ總テ學習院ノ規則ニ依ルヘキモノトス

十八

第三章 諸種ノ學校

●大學令 (明治十九年三月 勅令第三號)

- 第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攷究スルヲ以目的トス
- 第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス
- 第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス
- 第五條 帝國大學總長ハ帝國大學ヲ總轄シ帝國大學内部ノ秩序ヲ保持ス
- 第六條 帝國大學ニ評議會ヲ設ク
- 評議會ハ各分科大學長及各分科大學教授各一名ヲ以テ會員トス
- 帝國大學總長ハ評議會ヲ召集シ其ノ議長トナル
- 第七條 教授ニシテ評議員タルモノハ各分科大學毎ニ教授ノ互選ニ依リ文部大臣之ヲ命ス
- 前項ノ評議員ハ三箇年ヲ以テ任期トス但滿期ノ後再選セラル、コトヲ得

第八條 評議會ハ左ノ事項ヲ審議ス

第一 各分科大學ニ於ケル學科ノ設置廢止ノ件

第二 講座ノ種類ニ付諮詢ノ件

第三 大學内部ノ制規但勅令又ハ省令ヲ發スルノ必要アルモノハ其ノ建議案

第四 學位授與ノ件

第五 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件

評議會ハ高等教育ニ關スル事項ニ付其ノ意見ヲ文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第九條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學理科大學農科大學トス

第十條 分科大學長ハ分科大學ノ學務ヲ統理ス

第十一條 各分科大學ノ教官ハ教授及助教授トス

第十二條 必要アル場合ニ於テハ帝國大學總長ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條 帝國大學ニ功勞アリ又ハ學術上成績アル者ニ對シ勅旨ニ由リ又ハ文部大臣ノ奏宣

ニ由リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

第十四條 各分科大學ニ教授會ヲ設ケ教授ヲ以テ會員トス

分科大學長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長トナル

第十五條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

第一 分科大學ノ學科課程ニ關スル件

五項 第三章 大學令

十九

- 第二 學生試験ノ件
- 第三 學位授與資格ノ審査
- 第四 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件
- 第十六條 分科大學長ハ必要アリト認ムルトキハ教授ノ外助教授又ハ囑託講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得
- 第十七條 各分科大學ニ講座ヲ置キ教授ヲシテ之ヲ擔任セシム
- 教授ヲ缺ク場合ニ於テハ助教授又ハ囑託講師ヲシテ講座ヲ擔任セシムルコトアルヘシ
- 第十八條 講座ノ種類及其ノ數ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十九條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

●師範學校令 (明治十九年四月 勅令第十三號)

- 第一條 師範學校ハ教員トナルヘキモノヲ養成スル所トス
- 但生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス
- 第二條 師範學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス
- 第三條 高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ
- 但尋常師範學校附屬小學校ノ經費簡易科ニ係ルモノヲ除クハ授業料ヲ以テ支辨スヘシ授業料ノミナ以テ支辨シ能ハサル場合ニ於テハ其不足額ハ訓導俸給ヲ除クノ外尋常師範學校經費ヨリ支

辨スヘシ

- 第四條 高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨スヘシ
- 第五條 尋常師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第六條 師範學校校長及教員ノ任期ハ五箇年トス滿期後猶ホ繼續スルコトアルヘシ
- 第七條 尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼ヌルコトヲ得
- 第八條 師範學校生徒ノ定員並ニ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第九條 師範學校生徒ノ學資ハ其學校ヨリ之ヲ支給ス
- 第十條 高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得
- 第十一條 尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得
- 第十二條 師範學校ノ學科及其程度並教科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

●高等學校令 (明治廿七年六月 勅令第七十五號)

- 第一條 第一高等中學校第二高等中學校第三高等中學校第四高等中學校及第五高等中學校ヲ高等學校ト改稱ス

第二條 高等學校ハ専門學科ヲ教授スル所トス但帝國大學ニ入學スル者ノ爲メ豫科ヲ設クル
ヲ得

第三條 高等學校ハ其附屬トシテ低度ナル特別學科ヲ設クルヲ得

第四條 高等學校ニ於テ設クル所ノ學科及講座ノ數ハ文部大臣之ヲ指定スヘシ

附 則

第五條 本令ハ明治廿七年九月十一日ヨリ施行ス但各高等學校ニ於テ學科ヲ設置スルノ時期
ハ文部大臣之ヲ指定スヘシ

本令ヲ施行シ又ハ一部ヲ施行スル所ノ高等學校ニ於テ高等中學校ノ學科ヲ履修スル年期限内
ニアル生徒ノ爲ニ舊學科ヲ存スルヲ得

●高等女學校令 (明治三十二年一月七日)
(公布勅令第三十一號)

第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ

前項ノ校數ハ土地ノ情況ニ應シ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ地方長官之ヲ定ム

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小

學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 郡市町村立ノ高等女學校ニシテ府縣立高等女學校ニ代用スルニ足ルヘキモノアルト

キハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與ヘ第二條ノ設置ニ
代フルコトヲ得

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 高等女、校ノ修業年限ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ伸縮スルコトヲ
得

高等女學校ニ於テハ二箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ
課程ヲ卒リタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セントスル者ノ爲ニ技藝專修科ヲ
置クコトヲ得

高等女學校ニ於テハ其ノ卒業生ニシテ某學科ヲ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ置クコト
ヲ得

第十二條 高等女學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等女學校教員ノ免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 公立高等女學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十八條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

中學校令 (明治三十二年二月六日) 公布勅令第二十八號

第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ

文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ府縣ニ中學校ノ増設ヲ命スルコトヲ得

第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り中學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條 土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル

第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

中學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五箇年トス但シ一箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業タル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 中學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 公立中學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設

立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條 既設ノ尋常中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ

專修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公私立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス

他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

●實業學校令 (明治三十二年二月六日 公布勅令第二十九號)

第一條 實業學校ハ工業農業商業等ノ實業ニ従事スル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校農業學校商業學校商船學校及實業補習學校トス

蠶業學校山林學校獸醫學校及水産學校等ハ農業學校ト看做ス

徒弟學校ハ工業學校ノ種類トス

二十八

第三條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得但シ道廳府縣立實業補習學校ハ他ノ道廳府縣立實業學校ニ附設スル場合ニ限ル

文部大臣ハ土地ノ情況ニ應シ必要ナル實業學校ノ設置ヲ府縣ニ命スルコトヲ得

第四條 前條ノ實業學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第五條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學校教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 工業學校農業學校商業學校商船學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ實業補習學校ノ設置廢止ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

實業學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 實業學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 實業學校ノ教科書ハ公立學校ニ在リテハ學校長ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十條 實業學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 公立實業學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十二條 公立實業補習學校職員ノ名稱待遇ハ公立小學校ノ例ニ依ル

第十三條 實業學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 實業學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十七條 本令ハ官立學校ニ適用セス

第十八條 他ノ法令中ニ技藝學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然實業學校ト看做ス

第十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中徒弟學校及實業補習學校ニ關スル規定

ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

●小學校令 (明治二十三年十月勅令第二百十五號)

第一章 小學校ノ本旨及種類

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

市町村若クハ町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立學校トシ一人若

クハ數人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス
徒弟學校及實業補習學校モ亦小學校ノ種類トス

三十

第二章 小學校ノ編制

第三條 尋常小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術體操トス
土地ノ情況ニ依リ體操ヲ缺クコトヲ得又日本地理日本歴史圖書唱歌手工ノ一科目若クハ數
科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第四條 高等小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術日本地理日本歴史外國地理理科圖書唱
歌體操トス女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルモノトス

土地ノ情況ニ依リ外國地理唱歌ノ一科目若クハ二科目ヲ缺クコトヲ得又幾何ノ初步外國語
農業商業手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第五條 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置クコトヲ得

第六條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ農科商科工科ノ一科若クハ數科ノ專修科ヲ置
クコトヲ得其專修科ハ正教科ニ併セ置キ又ハ之ニ代フルモノトス

第七條 尋常小學校又ハ高等小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第八條 尋常小學校ノ修業年限ハ三箇年又ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年三箇
年又ハ四箇年トス

第九條 專修科補習科徒弟學校及實業補習學校ノ教科目及修業年限ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 小學校ノ某教科目ハ文部大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ之ヲ隨意科目トナシ又ハ之ヲ學
習シ能ハサル兒童ニ課セサルコトヲ得

第十一條 第三條又ハ第四條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除スルニハ市町村立小學校ニ就キテ
ハ其市參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受
クヘシ

第五條ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置キ又ハ其併置ヲ止ム
ルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府
縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條第七條又ハ第八條ニ依リ正教科專修科若クハ補習科ヲ設置廢止シ又ハ修業年限ヲ定
ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ
府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 小學校教則ノ大綱ハ文部大臣之ヲ定ム

府縣知事ハ小學校教則ノ大綱ニ基キ其府縣ノ小學校教則ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
第十三條 小學校ノ單級多級ノ制男女ヲ區別シ教授スヘキ場合多級ノ學校ニ學校長ヲ置クヘ
キ場合一教員ノ教授シ得ヘキ兒童ノ數等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十四條 小學校ノ休業ハ日曜日ヲ除ク外毎年九十日ヲ超エサルモノトス但徒弟學校實業
補習學校補習科等ニ就キテハ此限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ニ依リサルコトヲ得
傳染病ノ流行其他非常變災アルトキハ市内ニ在ル小學校ニ就キテハ府縣知事町村内ニ在ル
小學校ニ就キテハ郡長ニ於テ一時之ヲ閉サシムヘシ其急迫ナル場合ニ於テハ市町村長ニ於
テモ亦之ヲ閉ツルコトヲ得

第十五條 小學校ノ每週教授時間ノ制限及祝日大祭日ノ儀式等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定
ス

第十六條 小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審查委員ニ於
テ審査シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシ

審查委員ハ府縣ニ置キ府縣官吏府縣參事會員尋常師範學校長教員尋常中學校長及小學校教
員ヲ以テ之ヲ組織ス

審查委員及審査ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 小學校ニ於テハ校舍校地校具體操場ヲ備ヘ又農科ヲ設クル小學校ニ於テハ農業練
習場ヲ備フヘキモノトス

特別ノ事情アルトキハ體操場農業練習場ヲ備ヘサルコトヲ得此場合ニ於テハ市町村立小學
校ニ就キテハ其市町村ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ
其設立者ニ於テ府縣知事町村内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ
受クヘシ

第十八條 校舍校地校具體操場農業練習場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的ニ關セ
サル事件ノ爲使用スルコトヲ得ス若シ特別ノ事情アリテ之ヲ使用セントスルトキハ市町村
立小學校ニ就キテハ其市町村長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ
就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事町村内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長
ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 校舍校地校具體操場農業練習場ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣定ムル所ノ準則ニ
基キ府縣知事ニ於テ土地ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第三章 就學

第二十條 兒童滿六歲ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲシテ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル間ハ就學セシム
ルノ義務アルモノトス

前項ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ達シタル年ノ學年ノ始メヨリ生スルモノトス
學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件ハ文部大臣之ヲ規定ス

第二十一條 貧窮ノ爲又ハ兒童ノ疾病ノ爲其他已ムヲ得サル事故ノ爲學齡兒童ヲ就學セシム
ルコト能ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長ニ申立ツ
ヘシ

市町村長ハ前項ノ申立ニ依リ必要ナリト認ムルトキ又ハ前項ノ申立ナキモ猶必要ナリト認

ムルトキハ學齡兒童若クハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ就キテ検査ヲ行フコトヲ得
市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ検査ニ依リ就學ヲ猶豫シ又ハ免除スルトキハ監
督官廳ニ許可ヲ受クヘシ

第二十二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲ市町村立小學校又ハ之ニ代用スル私立
小學校ニ出席セシムヘシ若シ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルト
キハ其市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル兒童又ハ一家中ニ傳染病者アル兒童又ハ不
良ノ行爲アル兒童又ハ課業ニ堪ヘサル兒童等ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス
前項ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十四條 學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可
ヲ受クヘシ

第四章 小學校ノ設置

第二十五條 各市町村ニ於テ其市町村内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ
設置ス

町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ本令ニ關シテハ之ヲ
一町村ト同視ス

第二十六條 市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ

定ムヘシ

町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知
事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條 郡長ハ一町村ノ資力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定
スル場合ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學
校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ

第二十八條 郡長ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト
認定スル場合又ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルモ道
路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲適度ノ通學路程内ニ於テ

一 尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認定スル場合ニ於テハ左ノ例
ニ依ルヘシ

一 其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ
設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ

二 其町村ヲシテ其町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又
ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムヘシ

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲其兒童ヲシテ
其町村ノ尋常小學校ニ通學セシムルコト能ハサル事情アリト認定スル場合ニ於テハ前項ノ

例ニ依ルヘシ

三十六

郡長ハ町村學校組合ニシテ前項ノ事情アリト認定スル場合ニ於テハ本條第一項第二ノ例ニ依ルヘシ

第二十九條 郡長ハ第二十七條及第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲ設ケシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムルトキモ亦同シ
郡長ハ第二十八條ニ依リ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ關係町村町村學校組合及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第三十條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得
郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキ其他必要ノ事情アルトキハ町村内若クハ町村學校組合内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔若クハ兒童教育事務委託ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

- 一 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ
- 二 町村内若クハ其一区内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ兒童ノ全部若クハ一部

ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所數箇所アルトキ

- 三 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ト其一部内ノ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所トアルトキ

本條第一項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ
本條第二項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第三十一條 郡長ハ第二十八條第一項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條第二項若クハ第三項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テモ町村若クハ町村學校組合ハ特別ノ事情アルトキハ猶郡長ノ許可ヲ受ケテ尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得其小學校ノ位置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受ケヘシ

第三十二條 郡長ハ町村學校組合ヲ解カシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

郡長ハ町村內若クハ其一部內又ハ町村學校組合ノ一部內ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムルコトヲ止ムルトキハ關係町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條 町村ハ一町村限リノ負擔ヲ以テ尋常小學校ヲ設置スルニ比シ猶優等ナル尋常小學校ヲ得ヘキ場合又ハ其費用ヲ輕減シ得ヘキ場合ニ於テハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ學校組合ヲ設ケ其學校組合ニ相當スル尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ其學校組合ヲ設ケルノ協議ヲナス際併セテ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 前條ノ町村學校組合ハ郡長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ解クコトヲ得ス

郡長ハ前條及本條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十五條 府縣知事ハ市内ニ私立尋常小學校アルトキハ其市立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ町村內若クハ町村學校組合內ニ私立尋常小學校アルトキハ其町村立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務委託ノ事ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十六條 市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ高等小學校ヲ設置シ又ハ其區ヲシテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三十七條 町村ハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ町村學校組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

本條ノ學校組合ニ就キテハ第三十四條ヲ適用ス

第三十八條 第三十六條及第三十七條ノ規程ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス

第三十九條 第三十一條末項第三十三條第三十六條第三十七條及第三十八條ニ掲グル小學校ノ廢止ハ其設立ノ例ニ依ルヘシ

第四十條 市町村ハ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十六條第三十七條及第三十九條ノ規程ヲ適用ス

第四十一條 私立ノ小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ノ設立ハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其廢止ハ之ヲ府縣知事ニ上申スヘシ

第四十二條 第四十條及第四十一條ノ學校等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五章 小學校ニ關スル府縣郡市町村ノ負擔及授業料

第四十三條 市町村立小學校ノ設置ニ關ル市町村及町村學校組合並區ノ負擔ノ概目左ノ如シ

- 一 校舍校地校具體操場農業練習場ノ供給及支持
- 二 小學校教員ノ俸給旅費等
- 三 小學校ニ關スル諸費

四十

第四十四條 市町村立小學校ニ就學スル兒童ヲ保護スヘキ者ハ授業料規則ニ依リ授業料ヲ納ムヘシ

授業料ハ市町村ニ屬スル收入トス

一家ノ兒童同時ニ數名就學スルトキハ授業料ヲ減スルコトヲ得

市町村長ハ兒童ヲ保護スヘキ者貧窮ナル場合ニ於テハ授業料ノ全額若クハ一部ヲ免除スヘシ

授業料ハ物品若クハ勞力ヲ以テ之ニ代フルヲ許スコトヲ得

授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十五條

郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ學校組合内ノ某町村ヲシテ其數校中ノ一校若クハ若干校ノ設置ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲシテ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ其學校組合内某町村ヲシテ其委託ノ事ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得

本條ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ開キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四十六條 郡長ニ於テ町村學校組合ノ資力其學校組合ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定シ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其學校組合費用ノ分擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ郡長ハ郡費ヲ以テ其學校組合若クハ町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ開キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十七條 郡長ニ於テ第二十七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ郡

ハ郡費ヲ以テ其町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ開キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十八條 府縣知事ニ於テ市ノ資力其市ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣知事ヲ以テ其市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ開キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十九條 府縣知事ニ於テ郡ノ資力第四十六條又ハ第四十七條ノ補助ヲ負擔スルニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣知事ヲ以テ其郡ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ開キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十條 區長並其代理者及學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村若クハ町村學校組合ノ負擔トス但區長並其代理者及區ノ學務委員ニ關スルモノハ市町村會又ハ町村學校組合ノ議決ヲ以テ區ノ負擔トナスコトヲ得

第五十一條 郡視學ノ給料旅費退隱料等ハ郡ノ負擔トス其額及支給方法ハ郡會ノ議決ニ依リ

府縣知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第五十二條 小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ竝小學校教科用圖書審查委員及審査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第六章 小學校長及教員

第五十三條 小學校ノ教員中小學校ノ某教科目ヲ教授スル者ヲ專科教員トシ其他ノ者ヲ本科教員トス

小學校ノ教員中小學校ノ教科目ヲ補助教授シ又ハ一時教授スル者ヲ准教員トシ其他ノ者ヲ正教員トス

第五十四條 小學校ノ教員ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第五十五條 小學校教員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格スルコトヲ要ス
檢定ハ府縣ニ小學校教員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但某種ノ小學校教員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之ヲ施行ス

檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格教員免許狀教員候補者等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十六條 小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十七條 市町村立小學校長及教員ノ名稱及待遇法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五十八條 市町村立小學校長及教員ノ任用解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第五十九條 市町村立小學校ノ教員ハ市町村長ニ於テ薦舉スル所ノ三名以下ノ候補者ニ就キ

府縣知事之ヲ任スルモノトス

府縣知事ハ前項ノ候補者適當ナラスト認ムルトキハ再ヒ薦舉ヲナサシメ適當ナラスト認ムルトキハ薦舉ニ依ラスシテ直ニ之ヲ任スヘシ

本條第一項ノ薦舉ハ教員ノ缺員ヲ生シ又ハ新ニ其位地ヲ設ケタル日ヨリ二十八日以内ニ之ヲ施行シ第二項ノ薦舉ハ其薦舉ヲ命セラレタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ施行スヘシ若シ此期限内ニ施行セサルトキハ府縣知事ハ薦舉ニ依ラスシテ直ニ之ヲ任スヘシ

市町村立小學校長ハ府縣知事其學校ノ教員中ニ就キテ之ヲ兼任スルモノトス

第六十條 市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準竝給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ給料額及旅費額標準ノ範圍内ニ於テ教員ニ交付スヘキ給料及旅費ノ額ハ市參事會又ハ町村長ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ確定ス

市町村立小學校教員ノ給料ノ若干分ハ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得但其歩合ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ換給スル土地ノ使用又ハ物品ノ價格ハ市町村ノ申出ニ依リ監督官廳之ヲ確定ス其確定シタル價格ハ監督官廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ訂正スルコトヲ得又監督官廳ハ前項ノ換給ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得

第六十一條 小學校長及教員ノ職務及服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十二條 市町村立小學校教員ハ學務委員ニ任セラレタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十三條 小學校長及教員ハ兒童ニ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第六十四條 市町村立小學校長及教員職務ヲ粗略ニシ若クハ職務上遲奉スヘキ指命ニ違背シ

又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ譴責罰俸免職

免許狀褫奪トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其業務ヲ停

止シ又ハ免許狀ヲ褫奪スヘシ

免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ十四日以内ニ文部大臣ニ訴願ス

ルコトヲ得

市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ニ關スル規則竝私立小學校長及教員ノ業務停止及免許

狀褫奪ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十五條 小學校教員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰

金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免許狀ヲ褫奪セラル、モノト

ス

第七章 管理及監督

第六十六條 郡ニ郡視學一名ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス

郡視學ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ト同一ノ待遇ヲ受グルモノトス

第六十七條 郡視學ハ郡長ノ指揮命令ヲ受ケテ郡内ノ教育事務ヲ監督ス

第六十八條 府縣知事ハ郡ノ申出ニ依リ特ニ郡視學ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ府縣

知事ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ一名ニ命シテ郡視學ノ名義ヲ以テ其職務ヲ行ハシム

第六十九條 郡視學ニ對スル懲戒處分ハ官吏懲戒例ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

第七十條 市町村長ハ市町村ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村小學校ヲ管理ス但學校長

若クハ首席教員ノ管理ニ屬スル事務ハ之ヲ監督ス

第七十一條 市町村長ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市

制第二百二十四條町村制第二百二十八條ヲ適用ス

第七十二條 市ハ教育事務ノ爲市制第六十一條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會ノ議決ニ依

ルノ限ニ在ラス

委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分之一ニ下ルコトヲ得ス

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市長之ヲ任免ス

第七十三條 市ノ學務委員ハ市ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長ヲ補助ス

第七十四條 府縣知事ハ市ノ區長及其代理者ヲシテ市長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區

ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七十五條 市ハ教育事務ノ爲市條例ノ規程ニ依リ市内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス
第七十六條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長區長
其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第七十七條 市ノ區長及其代理者並第七十二條及第七十五條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニ
シテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 市制第六十四條第五ノ規程ニ依リ市長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ合此場ニ於テハ市制第百
二十四條第二項第一ノ規程ヲ適用ス
二 市制第百二十四條第一項及第二項第三第四ノ規程ヲ適用ス

第七十八條 第七十三條及第七十六條ノ事務執行ニ關スル市長區長及其代理者並學務委員ノ
關係及其必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第七十九條 町村ハ教育事務ノ爲町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但町村會ノ議
決ニ依ルノ限ニ在ラス
委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得
ス

委員中教員ヨリ出ツル者ハ町村長之ヲ任免ス
第八十條 町村ノ學務委員ハ町村ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長ヲ補助ス
第八十一條 府縣知事ハ町村ノ區長及其代理者ヲシテ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケ

テ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第八十二條 町村ハ教育事務ノ爲町村條例ノ規程ニ依リ町村內ノ内ニ學務委員ヲ置クコトヲ
得

委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十三條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長區長
並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十四條 町村ノ區長及其代理者並第七十九條及第八十二條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分
ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村
制第百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第百二十八條第一項及第二項第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十五條 第八十條及第八十三條ノ事務執行ニ關スル町村長區長及其代理者並學務委員ノ
關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第八十六條 町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學校組合內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得
本條ノ委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十七條 町村學校組合ノ學務委員ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ

補助ス

府縣知事ハ町村學校組合内ノ區ノ學務委員ヲシテ區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助セシムルコトヲ得

四十八

第八十八條 第八十六條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ組合長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第二百二十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十九條 第八十七條ノ事務執行ニ關スル組合長及學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 特別ノ事情アル町村若クハ町村學校組合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ學務委員ヲ置カサルコトヲ得

第九十一條 文部大臣ハ私立小學校ニシテ法律命令ノ規程ニ反ルモノアルトキハ府縣知事ニ命シテ之ヲ閉鎖セシムルコトヲ得

第九十二條 前諸條ニ掲グル教育事務トハ專ラ小學校教育ノ範圍ニ屬スル事務ヲ謂フ

第八章 附則

第九十三條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知

事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第九十四條 幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ニ就キテハ本令ノ規程ヲ適用スルコトヲ得但尋常小學校設置ノ義務就學ノ義務等ニ關スル規程ハ此限ニ在ラス

第九十五條 本令ニ依ラスシテ授與シタル小學校教員免許狀ハ仍其効力ヲ有スルモノトス但正教員教准員ノ別ハ文部大臣之ヲ定ム

第九十六條 明治十九年(四月)勅令第十四號小學校令其他本令ニ抵觸スル成規ハ本令施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

●高等師範學校規程 (明治二十七年四月 文部省令第十一號)

第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科理科トス

第二條 文科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、英語、歷史、地理、哲學、經濟學、體操トス

前項科目ノ外獨語及習字ヲ隨意科トス又獨語ヲ以テ英語ニ換フルコトヲ得

第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、英語、數學、物理、化學、地學、植物、動物、生理、農業、手工、圖畫、體操トス但農業、手工ハ生徒ノ所長ニ依リ其一ヲ課ス

前項科目ノ外獨語ヲ隨意科トス又獨語ヲ以テ英語ニ換フルコトヲ得

第四條 高等師範學校ノ學科ハ尋常師範學校ノ課程ニ照ラシ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教

第五類 第三章 高等師範學校規程

四十九

授スルモノトス

第五條 修業年限ハ四箇年トス

第六條 第四年級生徒ハ附屬學校ニ於テ實地授業ニ從事セシムヘシ

第七條 入學試験ニ及第シタル者ハ一定ノ期間假ニ入學セシメ其ノ資性品行才能ヲ審察シ適

當ト認ムル者ニ限り本入學ヲ許スヘシ

第八條 本入學生徒ハ自費トス但本項ハ明治二十八年年度ヨリ施行スヘシ

第九條 本入學生徒在學中疾病ニ因ルノ外自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ

卒業ノ後正當ノ事由ナクシテ服務ノ義務ヲ盡サ、ル者亦前項ニ同シ

文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條 生徒在學中疾病ニ罹リ若ハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認

ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ

第十條 高等師範學校尋常中學校ノ教員タル者ハ前項ニ依ルヘシ

第十條 高等師範學校ノ卒業生ニシテ尋常師範學校尋常中學校又ハ之ニ均キ程度ノ各種學校

ノ教員タラントスルノ目的ヲ以テ教育學及教授法ヲ專修セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設ク

第十一條 研究生ノ在學期限ハ一箇年以下トス但必要ヲ認ムルトキハ延期ヲ許可スルコトヲ得

第十二條 尋常師範學校尋常中學校ノ教員ノ闕乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ

專修科ヲ置クコトヲ得

專修生ハ授業料ヲ徴收ス

第十三條 尋常師範學校尋常中學校ノ教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ文科又ハ理科中ノ一

科目若ハ數科目ヲ撰ヒテ專修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得

第十四條 撰科生ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス

第十五條 明治十九年文部省令第十七號中男子師範學科ニ關スル規定ハ之ヲ廢ス

●高等師範學校卒業生服務規則 (明治十九年十月文部省令第十九號)

第一條 高等師範學校男子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其

間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

第二條 高等師範學校男子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省指定ノ

場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス

第三條 高等師範學校女子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其

間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

第四條 高等師範學校女子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省指定ノ

場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス

●高等師範學校及女子高等師範學校ニ於テ生徒ヲ臨時補充スルノ

必要アルトキハ變則募集ヲ爲スヲ得ル件 (明治二十六年八月 文部省令第十一號)

高等師範學校及女子高等師範學校ニ於テ生徒ノ缺員ヲ臨時補充スル必要アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則第一條乃至第三條ノ規定ニ依ラス學力年齢當該學級ニ相當ノ資格アル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

●公立尋常中學校卒業生ヨリモ高等師範學校生徒ヲ募集スルヲ得

ル件 (明治二十七年二月 文部省令第二號)

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ニ依リ募集スル生徒ハ尋常師範學校卒業生ノ外地方長官ニ於テ公立尋常中學校卒業生ヨリ選舉スルコトヲ得

●女子高等師範學校規程 (明治三十年十月 文部省令第廿四號)

第一條 女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科理科トス
第二條 文科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、外國語、歴史、地理、家事、體操トス
前項科目ノ外習字、圖畫、音樂ヲ隨意科トス

第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、外國語、地學、數學、物理、化學、博物、家事、圖畫、體操トス
前項科目ノ外習字音樂ヲ隨意科トス

第四條 女子高等師範學校ノ科學ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス

第五條 修業年限ハ四箇年トス

第六條 第四年級生徒ハ附屬學校及幼稚園ニ於テ實地授業及保育ニ從事セシム

第七條 生徒在學中自己ノ便宜ニヨリ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ

文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ備費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第八條 生徒在學中疾病ニ罹リ若クハ學業進マス品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認め

ルキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ

品行修マサルカ爲ニ退學ヲ命セラレタル者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ

第九條 相當ノ學力ヲ有シ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タラントスルノ目的ヲ以テ教育學及教授法ヲ專修セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設クルコトヲ得

研究生ノ在學期限ハ二箇年以下トス

第十條 師範學校女子部及高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

專修科ノ學科目及其程度並ニ修業年限、募集人員、入學者資格等ハ其都度文部大臣ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

五十四

第十一條 師範學校女子部又ハ高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ文科又ハ理科中ノ一科若クハ數科目ヲ選ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得

撰科生ハ何等ノ科目ヲ撰フニ拘ハラズ教育學ヲ專修スルコトヲ要ス

撰科生ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス

●尋常師範學校設置規則 (明治二十五年七月 文部省令第十二號)

第一條 校地ハ學校ノ規模ニ適應ナル地積ヲ有シ道德上及衛生上ニ害ナキ所タルヘシ

第二條 校地内ニ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クヘシ土地ノ情況ニ依リ校地内ニ之ヲ設ケルコトヲ得サルトキハ成ル可ク學校ノ近傍ニ之ヲ設クヘシ

農業科ヲ置ク學校ニ於テハ便宜ノ地ニ農業練習場ヲ設クヘシ

第三條 校舍ハ其構造堅牢ニシテ教授上及管理上及衛生上ニ適スルモノタルヘシ

第四條 校舍ハ學科ノ種類學級及生徒ノ數並其他ノ須要ニ應シ左ノ諸室ヲ備フヘシ

- 一 通常教室
- 二 物理化學、博物、家事、圖畫、音樂等ノ特別教室並商業實習室手工實習場
- 三 圖書器械室藥品室標本室

四 講堂

五 職員室其他要所ノ諸室

前項ノ外便宜體操場ニ充ツヘキ相當ノ建物ヲ設クヘシ

第五條 前條ノ外生徒寄宿舎ヲ設クヘシ

寄宿舎ハ自修室寢室ヲ區別シ且舍監室食堂浴室盥嗽場等ヲ備フヘシ

但女子生徒ニ就テハ自修室寢室ヲ區別セサルコトヲ得

第六條 校舍ハ男生徒女生徒ニ就キ區別シテ之ヲ設クヘシ但通常教室及寄宿舎ヲ除クノ外ハ土地ノ情況ニ依リ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第七條 教室ニ要スル黑板机腰掛等ハ適應ナルモノヲ備ヘ其他舍室ニ要スル器品等ヲ備フヘシ

第八條 地理、數學、物理、化學、博物、家事、圖畫、音樂、體操、農業、商業、手工等ノ教授用器具器械標本模型圖畫等ハ尋常師範學校ノ學科程度ヲ教授スルニ差支ナキ様之ヲ備フヘシ

第九條 圖書ハ教科用及參考用ノモノヲ備フヘシ

第十條 尋常師範學校ニ附屬小學校ヲ設クヘシ附屬小學校ノ設備ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條 女生徒ノ爲ニ尋常師範學校ニ便宜附屬幼稚園ヲ設クヘシ

第十二條 土地ノ情況ニ依リ便宜學校長舍監等ノ住宅ヲ設クヘシ

第十三條 學校ノ位置ヲ選定シ〔又ハ校舍ヲ建築〕スルニハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其敷地〔建物〕ノ圖面坪數〔及建築ノ設計〕等ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ（二十六年三月文部省令第七號ヲ以テ學校ノ位置選定ノ外ハ文部大臣ノ許可ヲ受クルニ及ハサルコトト爲レリ）

尋常師範學校生徒募集規則（明治二十五年七月文部省令第十號）

- 第一條 尋常師範學校生徒ノ募集ハ每學年ノ始ニ於テスヘシ
- 第二條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集シ其身體品行學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フヘシ
 - 一 身體健全品行方正ニシテ小學校教員タルニ適當ナリト認ムル者
 - 二 尋常小學校ノ本科准教員タルヘキ免許狀ヲ有シ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者
 - 三 男子ハ年齡十六年以上二十年未滿女子ハ年齡十五年以上二十年未滿ノ者但特別ノ事情アルトキハ二十年以上二十五年以下ノ者ヲ入學セシムルコトヲ得
- 第三條 尋常師範學校ノ各學級ニ缺員アルトキハ前條第一款ノ資格ヲ有シ學力年齡トモ該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得
- 第四條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集スヘシ但土地ノ情況ニ依リ第二種ノ生徒ヲ募集セサルコトヲ得
- 第一種 郡長市長ノ薦舉ニ係ル者

- 第二種 直ニ尋常師範學校ニ願出ツル者
- 前項ノ郡長市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ郡長市長ヲ置カサル地方ニ於テハ島司區長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ
- 第五條 入學ヲ許可セントスルトキハ初メ試驗生トシテ四箇月以内假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審査シ適當ト認ムル者ニ限り本入學ヲ許可スヘシ但尋常師範學校ノ豫備科卒業生ヲ入學セシムル場合ニ於テハ本文ニ依ルノ限ニ在ラス
 - 第六條 此規則ニ關スル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

工業教員養成規程（明治二十七年六月文部省令第十二號）

- 第一條 實業教育費國庫補助法第七條ニ基キ徒弟學校及工業補習學校教員ヲ養成スル爲ニ工業教員養成所ヲ置ク
- 第二條 工業教員養成所ハ東京工業學校長ヲシテ之ヲ管理セシム
- 第三條 工業教員養成所ニ本科及速成科ヲ置キ本科生徒ノ定員ハ百名トシ速成科生徒ノ定員ハ四十名トス
- 第四條 本所生徒ニハ學資ヲ補給ス
- 第五條 本科ノ修業年限ハ二箇年トス但學校長ノ意見ニ依リ仍一箇年間補習セシムルコトヲ得

速成科ノ修業年限ハ一箇年トス

第五條 本科ニ入ルヘキ生徒ハ年齢十七年以上ノ男子ニシテ尋常中學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

入學生ノ一部ハ地方長官ヲシテ之ヲ薦舉セシメ他ノ一部ハ競争試験ニ依ル

速成科ニ入ルヘキ生徒ノ資格ハ文部大臣ノ許可ヲ經テ東京工業學校校長之ヲ定ム

第六條 本科生徒ハ卒業ノ日ヨリ六箇年間文部大臣ノ指定スル學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス其ノ地方長官ノ薦舉ニ依ル者ハ地方長官ニ於テ指定スル學校教員ノ職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス但薦舉シタル地方ニ於テ就職スヘキ學校ナキトキハ文部大臣ニ於テ指定スヘシ

第七條 速成科生徒ハ卒業ノ日ヨリ二箇年間文部大臣ノ指定スル學校教員ノ職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス

第八條 半途退學ノ者又ハ卒業後第六條及第七條ニ定ムル義務ヲ盡サ、ル者ハ補給シタル學資ヲ償還スヘシ但文部大臣ハ學校長ノ具申ニ依リ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條 本規程ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

●工業學校規程 (明治三十二年二月二十五日)

(公布文部省令第八號)

第一條 工業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但一箇年以内延長スルコトヲ得

第二條 工業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以内トス但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第三條 工業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、圖畫、體操並ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、博物、外國語、經濟、法規、簿記及其他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

- 一 土木科 測量、應用力學、河海工、道路鐵道、橋梁、施工法、製圖等
- 一 金工科 應用力學、工場用具及製作法、製造用諸機械大意、發動機大意、製圖等
- 一 造船科 應用力學、工場用具及製作法、發動機大意、造船製圖等
- 一 電氣科 應用力學、工場用具及製作法、發動機大意、電氣及磁氣、電氣工學、製圖等
- 一 木工科 應用力學、家屋構造、工場用具及製作法、建築沿革、施工法、配景法、製圖及繪畫等
- 一 鑛業科 地質、採鑛、冶金、試金、應用力學、發動機大意、測量製圖及坑内演習等
- 一 染織科 機械法、色染法、應用化學、應用機械學、分析、製圖及繪畫等
- 一 窯業科 窯製品製造、應用化學、應用機械校、分析、製圖及繪畫等
- 一 漆工科 漆器製造法、工藝史、繪畫、應用化校大意等
- 一 圖案繪畫科 配景法、解剖大意、工藝史、建築沿革大意、繪畫、應用化學大意、各種

工藝品圖案等

六十

前項ノ外特種工業ノ爲ニハ便宜學科ヲ設クルコトヲ得

第四條 工業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第五條 工業學校ニハ豫科ヲ附設スルコトヲ得

第六條 豫科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第七條 豫科ノ授業時數ハ每週三十時以内トス

第八條 豫科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歴史、理科、圖畫、體操トス但外國語ヲ加フルコトヲ得

第九條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 工業學校ニハ簡易ノ方法ニ依リ工業ニ必要ナル事項ヲ教授スル爲別科ヲ設クルコトヲ得

第十一條 工業學校ニ於テ卒業ノ後特ニ工業ニ關スル一科目若クハ數科目ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

第十二條 專攻科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第十三條 工業學校ノ校科及徒弟學校ノ學科ヲ一校內ニ併置スルコトヲ得

第十四條 土地ノ情況ニ依リ本令規定ノ工業學校ノ程度ヨリ更ニ高等ナル工業學校ヲ設置スルコトヲ得

第十五條 工業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限
- 三 授業日數
- 四 休業日
- 五 學科目及其程度
- 六 各學科目每週授業時數
- 七 入學退學ノ規程
- 八 試驗法
- 九 賞罰ノ規程
- 十 授業料規程(授業料ヲ徵收スル場合)
- 十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)
- 十二 前各號ノ外學校管理上必要ノ事項

第十六條 工業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十七條 工業學校ニ於テハ校地内若クハ其附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設ク

ルコトヲ要ス

第十八條 工業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、工業實習場、其他必要ノ諸室ヲ備フルコトヲ要ス

第十九條 工業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、標本、模型、實習用諸機械、體操用器具等ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●農業學校規程 (明治三十二年二月二十五日 公布文部省令第九號)

第一條 農業學校ハ甲乙ノ二種トス

土地ノ情況ニ依リ甲種農業學校ノ程度ヨリ更ニ高等ナル農業學校ヲ設置スルコトヲ得

第二條 甲種農業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但一箇年以内延長スルコトヲ得

第三條 甲種農業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週三十時以内トス但實習時數ハ農事ノ繁閑ニ應シ適宜之ヲ定ムヘシ

第四條 甲種農業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、博物、經濟、體操並ニ實業ニ關スル科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、外國語、法規、簿記、記圖畫及其他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル科目ハ土壤、肥料、作物、園藝、農産製造、畜産、養蠶、病蟲害、氣候、林學大意、獸醫學大意、水産學大意等ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

第五條 甲種農業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試験科目ニ加フルコトヲ得

第六條 乙種農業學校ノ修業年限ハ三箇年以内トス

第七條 乙種農業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以内トス但實習時數ハ農事ノ繁閑ニ應シ適宜之ヲ定ムヘシ

第八條 乙種農業學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、理科、體操並ニ實業ニ關スル科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、經濟、圖書及其他ノ科目ヲ便宜加設シ又土地ノ情況ニ依リ短期ノ教授ヲ必要トスル場合ニハ修身及實業ニ關スル科目ノ外一科目若クハ數科目ヲ缺クコトヲ得

實業ニ關スル科目ハ土壤、肥料、作物、農産製造、家畜、養蠶、病蟲害、氣候等ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

第九條 乙種農業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 甲種農業學校ニハ豫科ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 豫科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第十二條 豫科ノ授業時數ハ每週二十内時以下トス

第十三條 豫科ノ學科目、修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歴史、理科、圖畫、體操トス但外國語ヲ加フルコトヲ得

第十四條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十五條 農業學校ニハ簡易ノ方法ニ依リ農業ニ必要ナル事項ヲ教授スル爲別科ヲ設クルコトヲ得

第十六條 修業期一箇年以内ノ乙種農業學校ノ教場及別科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ分設スルコトヲ得

第十七條 甲種農業學校ニ於テ卒業ノ後特ニ農業ニ關スル一科目若クハ數科目ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置キ又更ニ高等ノ農業學校ニ入ラントスル者ノ爲ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第十八條 專攻科及補習科ノ修業年限ハ各二箇年以内トス

第十九條 甲乙兩種ノ農業學校ノ學科及第二十六條ノ學校ノ學科ヲ一校内ニ併置スルコトヲ得

第二十條 農業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 學校ノ目的

二 修業年限

三 授業日數

四 休業日

五 學科目及其程度

六 各學科目毎週授業時數

七 入學退學ノ規程

八 試験法

九 賞罰ノ規程

十 授業料規程(授業料ヲ徴收スル場合)

十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)

十二 前各號ノ外學校管理上必要ノ事項

第二十一條 農業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第二十二條 農業學校ニ於テハ校地内若クハ其附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所及實習ニ供スヘキ必要ノ農地ヲ設クルコトヲ要ス

第二十三條 農業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、作業場、肥料場等ノ建物ヲ備フルコトヲ要ス

第二十四條 農業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、農具、標本、體操用器具等ヲ備フルコトヲ要ス

第二十五條 蠶業學校、山林學校、獸醫學校及水産學校ハ第四條第八條ノ外總テ前各條ニ準ス

第二十六條 蠶業學校、山林學校、獸醫學校及水産學校ノ學科目ハ左ノ如シ

甲種ノ學校ニ在リテハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、博物、經濟、體操並ニ實業ニ關スル科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、外國語、法規、簿記、圖畫及其他ノ科目ヲ便宜加設シ獸醫學校ニ在リテハ數學、物理、博物、經濟ヲ缺クコトヲ得

乙種ノ學校ニ在リテハ修身、讀書、習字、作文、算術、理科並ニ實業ニ關スル科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、經濟、圖畫、體操及其他ノ科目ヲ便宜加設シ又土地ノ情況ニ依リ短期ノ教授ヲ必要トスル場合ニハ修身及實業ニ關スル科目ノ外一科目若クハ數科目ヲ缺クコトヲ得

甲乙兩種學校ノ各學科ノ實業ニ關スル科目ハ左ニ掲グル事項ヨリ撰擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

一 蠶業學校ニ在リテハ蠶體解剖生理及病理、養蠶及製種、製絲、桑樹栽培、氣候、農學大意等

一 山林學校ニ在リテハ造林及森林保護、森林利用、森林測量及土木、測樹術及林價算法、

森林經理、氣候、農學大意等

一 獸醫學校ニ在リテハ解剖及組織、生理、藥物及調劑法、蹄鐵法、及蹄病論、内科、外科、寄生動物、畜産、衛生、獸疫、産料、剖檢法等

一 水産學校ニ在リテハ水産動物植物、漁撈、製造、養殖、地文及氣象、漁撈製造用諸機械大意、漁船構造及運用等

附 則

第二十七條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十八條 明治二十七年文部省令第十九號簡易農學校規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●商業學校規程 (明治三十二年二月二十五日 公布文部省令第十號)

第一條 商業學校ハ甲乙ノ二種トス

土地ノ情況ニ依リ甲種商業學校ノ程度ヨリ更ニ高等ナル商業學校ヲ設置スルコトヲ得

第二條 甲種商業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但一箇年以内延長スルコトヲ得

第三條 甲種商業學校ノ授業時數ハ毎週三十三時以内トス

第四條 甲種商業學校ノ學科目ハ修身讀書、習字、作文、數學、地理、歴史、外國語、經濟、法規、簿記、商品、商事要項、商業實踐、體操トス但本項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

第五條 甲種商業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學
校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第六條 乙種商業學校ノ修業年限ハ三箇年以内トス

第七條 乙種商業學校ノ授業時數ハ每週三十時以内トス

第八條 乙種商業學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、簿記、商事要項、
體操トス但本項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

第九條 乙種商業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十年以上學力修業年限四箇年ノ尋常小學校
卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 甲種商業學校ニハ豫科ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 豫科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第十二條 豫科ノ授業時數ハ每週三十時以内トス

第十三條 豫科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歴史、外國語、理科、圖
畫、體操トス但本科ニ於テ理科及圖畫ヲ加設シタルトキハ之ヲ缺クコトヲ得

第十四條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於
テ之ヲ定ムヘシ

第十五條 甲種商業學校ニ於テ卒業ノ後特ニ商業ニ關スル一科目若クハ數科目ヲ專攻セント
スル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

第十六條 商業學校ハ或學科ヲ限リ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ設クルコトヲ得

第十七條 專攻科及專修科ノ修業年限ハ各二箇年以内トス

第十八條 甲乙兩種ノ商業學校ノ學科及商船學校ノ學科ヲ一校内ニ併置スルコトヲ得

第十九條 商業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ定規スルコトヲ要ス

一 學校ノ目的

二 修業年限

三 授業日數

四 休業日

五 學科目及其程度

六 各學科目每週授業時數

七 入學退學ノ規程

八 試驗法

九 賞罰ノ規程

十 授業料規程(授業料ヲ徴收スル場合)

十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)

十二 前各號ノ外學校管理上必要ノ事項

第二十條 商業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第二十一條 商業學校ニ於テハ校地内若クハ其附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第二十二條 商業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、商業實踐室、其他必要ノ諸室ヲ備フルコトヲ要ス

第二十三條 商業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、標本、模型、商品見本、體操用器具等ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

第二十四條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十五條 明治十七年文部省達第一號商業學校通則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●商船學校規程 (明治三十二年二月二十五日) (公布文部省令第十一號)

第一條 商船學校ハ甲乙ノ二種トス

土地ノ情況ニ依リ甲種商船學校ノ程度ヨリ更ニ高等ナル商船學校ヲ設置スルコトヲ得

第二條 甲種商船學校ノ修業年限ハ三箇年以内トス但實習ヲ課スルトキハ相當ノ期間之ヲ延長スルコトヲ得

第三條 甲種商船學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以内トス但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第四條 甲種商船學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、地理、外國語、圖畫、體操並ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外化學、法規及其他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲グル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

航海科 運用術、航海術、機關術大意、海上氣象學大意、造船學大意等

一機關科 機關術、機械製圖、力學、應用力學、電氣學大意等

第五條 甲種商船學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第六條 乙種商船學校ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第七條 乙種商船學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週十七時以内トス但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第八條 乙種商船學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、數學、體操並ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲グル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

一航海科 運用術大意、航海術大意、海上氣象學大意等

一機關科 機關術大意、機械製圖、物理、化學等

第九條 乙種商船學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十年以上學力修業年限四箇年ノ尋常小學校

卒業以上ニ於テ定ムヘシ

七十二

第十條 甲種商船學校ニハ豫科ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 豫科ノ修業年限ハ二年箇以內トス

第十二條 豫科ノ授業時數ハ毎週三十時以內トス

第十三條 豫科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歴史、理科、外國語、圖畫、體操トス

第十四條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十五條 商船學校ニ於テ從來ノ海員ニシテ技術免狀ヲ有スル者相當ノ海上若クハ工場履歷ヲ有スル者其他海事ニ關スル學科目ヲ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ置クコトヲ得

第十六條 甲種商船學校ノ學科及乙種商船學校ノ學科ヲ一校內ニ併置スルコトヲ得

第十七條 商船學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限
- 三 授業日數
- 四 休業日
- 五 學科目及其程度

六 各學科目毎週授業時數

七 入學退學ノ規程

八 試驗法

九 賞罰ノ規程

十 授業料規程(授業料ヲ徵收スル場合)

十一 寄宿舍規程(寄宿舍ヲ設クル場合)

十二 前各號ノ外學校管理上必要ノ事項

第十八條 商船學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十九條 商船學校ニシテ校舍ヲ陸上ニ設置シタルトキハ其校地内若クハ其附近ニ於テ緊留船舶ヲ以テ校舍ニ代用スルトキハ陸上ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ

要ス

第二十條 商船學校ニ於テハ通常教室、特別教室、實習場、其他必要ノ諸室ヲ備フルコトヲ要ス

第二十一條 商船學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、標本、模型、實習用端舟及諸機械體操用器具等ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

第二十二條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第五類 第三章 商船學校規程

七十三

●實業學校設置廢止規則

(明治三十二年三月三日公布)
(文部省令第十二號)

七十四

- 第一條 工業學校農業學校商業學校及商船學校ヲ設置セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者ニ於テ私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ稟申スヘシ但シ實業學校令第三條ニ依リ設置スル場合ハ第八條ノ事項ヲ具スルコトヲ要セス
 - 一 名稱
 - 二 位置
 - 三 學則
 - 四 生徒定員
 - 五 敷地建物ノ圖面(坪數地質附近ノ情況ヲ記載シタルモノ)竝ニ其所有ノ區別
 - 六 收入支出豫算表
 - 七 職員數及俸給額ノ豫定
 - 八 設置區域内ニ於ケル當該實業ノ情況
 - 九 設立者ノ履歷法人又ハ組合ノ設立ニ係ルモノハ其定款、寄附行爲又ハ組合契約及其沿革定款又ハ寄附行爲ニシテ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ添付ヲ要セス
- 前項第一號乃至第五號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第九條ノ變更ハ文部大臣ニ開申シ第六號ハ每會計年度前ニ文部大臣ニ開申スヘシ但國庫ノ補助ヲ受クル學校ノ豫算表ハ此限ニアラス

- 第二條 學校長ヲ任免シタルトキハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ其都度文部大臣ニ開申スヘシ但任用ノ場合ニハ履歷書ヲ添付スヘシ
 - 第三條 地方長官ニ於テ實業補習學校ヲ道廳府縣立實業學校ニ附設シタルトキ又ハ其設置ヲ認可シタルトキハ第一條第一項第一號乃至第五號ノ事項ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ其變更ノ場合亦同シ但國庫ノ補助ヲ受クル學校ニ關シテハ此限ニアラス
 - 第四條 第一條ノ學校ヲ廢止セントスルトキハ其事由竝ニ生徒ノ處分方法ヲ具シテ文部大臣ニ稟申スヘシ
 - 第五條 地方長官ニ於テ實業補習學校ヲ廢止シタルトキ又ハ其廢止ヲ認可シタルトキハ其旨文部大臣ニ開申スヘシ
 - 第六條 道廳府縣立ニアラサル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ但其設置廢止ノ稟申ニ關シテハ地方長官ハ其意見ヲ具スヘシ
- 附 則
- 第七條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

●實業學校教員養成規程

(明治三十二年三月三日)
(公布文部省令第十三號)

- 第一條 東京帝國大學農科大學本科若クハ實科高等商業學校及東京工業學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者ニハ學費ヲ補給スルコトアルヘシ

第五類 第三章 實業學校設置廢止規則

七十五

補給スヘキ金額ハ一箇月六圓以内トス

第二條 前條ノ學生生徒ハ農科大學ニ於テハ同大學長高等商業學校及東京工業學校ニ於テハ當該學校長之ヲ選定ス

第三條 農業補習學校教員養成ノ爲農業教員養成所ヲ置キ農科大學長ヲシテ之ヲ管理セシム

商業學校及商業補習學校教員養成ノ爲商業教員養成所ヲ置キ高等商業學校長ヲシテ之ヲ管理セシム

工業學校徒弟學校及工業補習學校教員養成ノ爲工業教員養成所ヲ置キ東京工業學校長ヲシテ之ヲ管理セシム

第四條 第一條ノ學生生徒ノ員數及各養成所ニ募集スヘキ生徒ノ員數ハ毎年文部大臣之ヲ定ム

第五條 農業教員養成所ノ修業年限ハ一箇年トス

商業教員養成所ノ修業年限ハ三箇年トス

工業教員養成所ノ修業年限ハ三箇年トス

第六條 第一條ノ學生生徒ニハ最終ノ學年ニ於テ教育學及教授法ヲ教授セシム

第七條 農業教員養成所ノ學科目ハ倫理、農業汎論、農藝化學、耕種、畜産、農業、經濟、教育學、教授法、體操トス

商業教員養成所ノ學科目ハ倫理、商業作文、商業算術、商業地理、商業歴史、簿記、商品、經濟學、商業學、商法、商業實踐、英語、教育學、教授法、體操トス

工業教員養成所ニ本科及速成科ヲ置キ本科ヲ分チテ金工科、木工科、染織科、窯業科、應用化學科、工業圖案科トシ速成科ヲ分チテ金工科、木工科、染色科、機織科、陶器科、漆工科トス但各學科ノ科目ハ本科ニ在リテハ左ニ掲グルモノトシ速成科ニ在リテハ別ニ之ヲ定ム

金工科、木工科ノ科目ハ倫理、數學、物理學、圖畫、無機化學、應用重學、工場用具及製作法、工業經濟、工業衛生、英語、教育學、教授法、體操、實習ノ外金工科ニ在リテハ電氣工學大意、發動機、機械製圖トシ木工科ニアリテハ構造用材料家具及建築流派、家屋構造、衛生建築、製圖及意匠トス

染色科、窯業科、應用化學科ノ科目ハ倫理、數學、物理學、化學、圖畫、一般應用化學、應用機械學、定性分析、定量分析、工業分析、機械製圖、工業經濟、工業衛生、英語、教育學、教授法、體操、實習ノ外染織科ニアリテハ染色及配色、機織及意匠トシ窯業科ニ在リテハ窯業品製造トシ應用化學科ニ在リテハ特別應用化學、電鍍及電鍍トス

工業圖案科ノ科目ハ倫理、數學、物理學、化學、圖畫、圖案材料、機械製圖 工業經濟、工業衛生、英語、教育學、教授法、體操、實習トス

實業教員養成所生徒ニシテ師範學校ヲ卒業シタル者ニハ教育科ヲ課セサルコトヲ得

第七十八
第八條 各養成所ニ入學スヘキ者ノ資格ハ年齢十七年以上ニシテ師範學校中學校若クハ之ト同等以上ノ實業學校卒業ノ程度トス但工業教員養成所速成科ニ入學スヘキ者ノ資格ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 各養成所生徒ニハ一箇月六回以内ノ學資ヲ補給ス但假入學ノ間ハ學資ヲ補給セス
第十條 工業教員養成所管理者ハ其卒業生ニ研究生トシテ尙一箇年以内ノ在學ヲ命スルコトヲ得但研究生ニ補給スル學資ハ前條定額ヨリ増加スルコトヲ得

第十一條 第一條ノ學生生徒及各養成所ノ生徒ハ卒業ノ日ヨリ學資ノ補給ヲ受ケタル年限ニ一箇年ヲ加ヘタル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス

第十二條 第一條ノ學生生徒及各養成所ノ生徒ハ半途ニシテ退學シ若クハ前條ノ義務ヲ盡ササルトキハ補給シタル學資ヲ償還スヘキモノトス但文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第十三條 工業教員養成所ニ附屬工業補習學校ヲ置キ工業教員養成所生徒ヲシテ實地 操業ヲ練習セシム

工業補習學校ノ學科ハ金工木工ノ二科トス
工業補習學校ノ細則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ東京工業學校長之ヲ定ム

附 則

第十四條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 本令施行ニ關スル各教員養成規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ各管理者之ヲ定ム
第十六條 明治二十七年文部省第十二號工業教員養成規程ハ本令施行日ヨリ廢止ス
第十七條 明治二十七年文部省令第十二號工業教員養成規程第六條ニ依リ義務ヲ有スル者ハ本令第十二條ノ例ニ依ル

●高等學校ニ専門學科ヲ設置スルノ件 (明治二十七年七月 文部省令第十五號)

第三高等學校ニ法學部醫學部工學部ヲ設置シ第一第二第四第五高等學校ニ醫學部及大學豫科ヲ設置ス
此ノ省令ハ明治二十七年九月十一日ヨリ施行ス

●高等學校ノ修業年限及入學程度 (明治二十七年七月 文部省令第十六號)

第一條 第三高等學校ノ法學部工學部及各高等學校ノ醫學部ノ修業年限ハ四箇年トス但醫學部ニ於ケル藥學科ノ修業年限ハ舊ニ仍ル
大學豫科ノ修業年限ハ三箇年トス
第二條 高等學校入學ノ程度ハ尋常中學校卒業ノ程度ニ依ル

●高等女學校編制及設備規則 (明治三十二年二月九日 公布文部省令第五號)

第五類 第三章 高等學校ニ專門學科ヲ設置スルノ件及修業年限及入學程度

第一條 一學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但特別ノ事情アルトキハ六百人マテ増員スルコトヲ得

第二條 一學級ノ生徒數ハ三十五人以下トス但特別ノ事情アルトキハ五十人マテ増員スルコトヲ得

第三條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ編制スヘシ

修身、裁縫、音樂、體操及手藝ニ限り學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ教授スルコトヲ得

第四條 教員ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級ニ付二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ増員スヘシ但一學級ニ付少クトモ一人ハ他ノ職ヲ兼テ子又ハ他ノ職ヨリ兼務セサルコトヲ要ス

第五條 校地ハ學校ノ規模ニ適應ナル地積ヲ有シ道德上並ニ衛生上ニ害ナキ所タルヘシ校地内ニ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ備フヘシ

第六條 校舍ハ左ノ諸室ヲ備フヘシ

- 一 生徒各學級ニ應スル通常教室
- 二 理科、裁縫、圖畫、音樂等ノ各特別教室
- 三 雨中體操場
- 四 講堂

五 圖書室、器械室、標本室

六 職員室、生徒控所、其他所要ノ諸室

前項ノ諸室ハ差支ナキ限りニ於テ便宜兼用スルコトヲ得

第七條 教室ノ大サハ一學級ノ生徒ヲ容ルルニ足ルヲ度トシ生徒一人ニ付容積百二十立方尺以上トス

第八條 道廳府縣立高等女學校ニ於テハ寄宿舎ヲ設クヘシ但特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ寄宿舎ヲ設ケサルコトヲ得

第九條 寄宿舎ニハ自修室、寢室、舍監室、應接所、病室、食堂、理髮室、浴室、盥漱場等ヲ備フヘシ但自修室及寢室ハ便宜之ヲ兼用スルコトヲ得

第十條 自修室ハ生徒一人ニ付容積三百二十四立方尺以上寢室ハ四百八十六平方尺以上トス

第十一條 校地内ニ成ルヘク學校長、教員、舍監ノ住宅ヲ設クヘシ

第十二條 圖書、器械、標本、藥品、模型等ハ高等女學校ノ學科ヲ教授スルニ差支ナキ様之ヲ備フヘシ

附 則

第十三條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十四條 既設高等女學校ニシテ第一條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十二年三月三十一日マテニ其事由ヲ具シテ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條 既設高等女學校ニシテ第六條乃至第十條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十五年三月三十一日マテハ之ニ依ラサルコトヲ得

●高等中學校經費支辨方(明治二十年八月勅令第四十號)

中學校令第五條ニ依リ高等中學校ノ經費ヲ國庫金ト地方稅トヲ以テ支辨スル場合ニ於テハ該學校設置區域内ニ在ル府縣地方稅ノ負擔總額ハ當分ノ内文部大臣之ヲ定メ各府縣分擔額ハ府縣知事協議ノ上之ヲ査定シ府縣當置委員ノ互選ヲ以テ各委員三名ヲ出シテ之ヲ議定シ其徵收方法ハ各府縣會ニ於テ議定ス可シ但地方稅ノ負擔額ハ該學校經費總額ノ二分一ヲ超過スルコトヲ得ス

●高等中學校設置區域内府縣委員會規則(明治二十年九月勅令第四十六號)

- 第一條 委員會ハ九月若クハ十月ニ於テ高等中學校所在ノ府縣廳下ニ之ヲ開ク其開閉ハ該學校設置區域内各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事ヨリ之ヲ命ス會期ハ七日以内トス但各府縣知事協議ノ上内務大臣ノ認可ヲ得テ開會ノ場所ヲ變更スル事ヲ得
- 第二條 委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會ニ於テ議定シタル事件ノ要領ヲ報告スヘシ
- 第三條 委員ノ任期ハ一會期限リノモノトス
但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

- 第四條 委員會ノ書記ハ開會地ノ府縣知事其廳ノ屬官若クハ雇員中ヨリ之ヲ選任スヘシ
- 第五條 委員會ノ諸費ハ之ヲ各府縣ニ平分シ其府縣會議諸費ヨリ支辨スヘシ
- 第六條 府縣會議規則第三條第四條第五條第九條第十一條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條ハ此委員會ニ適用シ其餘項中府縣知事ノ職權ニ屬スルモノハ各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事之ヲ施行スヘシ

●尋常中學校ノ學科程度(明治二十七年三月文部省令第七號)

- 第一條 尋常中學校ノ學科ハ倫理、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、習字、圖畫、體操トス
- 前項ノ外隨意科トシテ簿記及唱歌ヲ加フルコトヲ得
- 第二條 尋常中學校ノ各學科授業ノ時數ハ左表ノ如シ但府縣立學校ハ地方長官ニ於テ、郡市町村立又ハ私立學校ハ地方長官ヲ經テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ斟酌スルコトヲ得

	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年
倫理	一	一	一	一	一
國語及漢文	七	七	七	七	七
外國語	六	七	七	七	七
歷史	三	三	三	三	四
地理	三	三	三	三	四

第五類 第三章 尋常中學校ノ學科程度

數	四	四	四	四	四	八十四
博	一	一	一	一	一	
物理及化學	一	一	一	一	一	
習字	二	一	一	一	一	
圖畫	三	三	一	四	四	
體操	二	三	三	三	三	
計	二八	二八	二九	三〇	三〇	

第三條 明治十九年文部省令第十四號第五條ニ定メタル各學科ノ程度中漢文ノ書取作文及數學ノ球面三角ヲ削ル

第四條 尋常中學校ニ於テハ實業ニ就カント欲スルモノニ適切ナル教育ヲ施ス爲ニ第四年級以上ニ於テ本科ノ外分テ實科ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣立學校ハ地方長官ニ於テ、郡市町村立又ハ私立學校ハ地方長官ヲ經テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 明治十九年文部省令第十四號第七條ヲ削除ス

第六條 従前ノ規定ニシテ本令ニ抵触スルモノハ之ヲ廢ス

第七條 沖繩縣ニ於ケル尋常中學校ハ同縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第九條 本令施行ノ前ニ入學シタルモノニハ其ノ卒業ニ至ルマテ従前ノ規定ニ依リ若ハ新舊

ノ規定ヲ斟酌シテ教授スルコトヲ得

前項ニ依リ規定ヲ斟酌シタル場合ニ於テハ府縣立學校ハ地方長官ニ於テ郡市町村立又ハ私立學校ハ地方長官ヲ經テ文部大臣ニ開申スヘシ

●從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件 (明治二十四年三月 勅令第十九號)

第一條 從來ノ市町村立尋常小學校ハ明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ左ノ各款ニ依リ處分スヘシ

一 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ其位置新ニ指定セラレタル市町村立尋常小學校ノ位置ト同一ナルモノハ之ヲ繼續維持スヘシ

二 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ不用ニ屬スヘキモノハ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備新ニ整フノ時ニ及ビ之ヲ廢スヘシ

三 兒童教育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第二款ノ例ニ依ルヘシ

四 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレ及兒童教育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第一

款第二款ノ例ニ依ルヘシ

五

聯合町村ヨリ成立スル尋常小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル尋常小學校設置區域ニ於テ設置スル尋常小學校ハ其區域ノ學齡兒童教育ノ事業ヲ引繼クヘキ市町村、町村學校組合又ハ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ニ於テ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ

第二條

市町村ニ於テ設置スル從來ノ高等小學校ハ其市町村會ノ議決ニ依リ明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ其市町村ニ於テ同令第三十六條ノ手續ヲ經タル上之ヲ繼續維持スルコトヲ得

第三條

聯合町村ヨリ成立スル高等小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル高等小學校設置區域ニ於テ設置スル高等小學校ハ其町村聯合會又ハ學區會ノ議決ニ依リ明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ尙六ヶ月間以内之ヲ存續スルコトヲ得

第四條

第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル管理監督ノ事務ハ從來ノ職員ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ擔任スヘシ

第五條

第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル費用及第四條ノ事務ニ係ル費用ハ從來ノ小學校設置區域ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ負擔スヘシ

第六條

第一條第五款及第三條ニ依リ一時存續シタル小學校ニ係ル事務引繼方等ニ關シテハ

府縣知事之ヲ規定スルコトヲ得

第七條 本令ノ規程ニ依リ難キ場合ニ在テハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ經テ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

●私立小學校代用規則

(明治二十四年三月
文部省令第一號)

第一條 市ハ其區域内ニアル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

町村及町村學校組合ハ其區域内ニアル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ニ依リ協議ヲ遂クヘキ事項概テ左ノ如シ

一 代用ノ期限

二 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ住スル區域

三 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員

四 代用私立小學校ニ對スル補助金ノ給否及金額

五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル事項

第一條ノ許可ヲ經タル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事項ニ就キ更ニ許可ヲ受ク

ヘシ

第三條 代用ノ期限ハ代用セントスル私立尋常小學校ノ修業年限ノ二倍ニ超過スルコトヲ得
ス但期限滿ルノ後更ニ代用スルコトヲ得

第四條 私立尋常小學校ハ設立以來三箇年ヲ經過シテ教育上相應ノ成績アルモノニアラサレ
ハ代用私立小學校タルコトヲ得ス

第五條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ
經ルコトヲ要ス

一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ修業年限ヲ改定セントスルトキ

二 小學校令第十一條第二項ノ許可ヲ受ケントスルトキ

三 多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ

四 學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ

五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第六條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市參事會、町村長若クハ町村組合長
ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一 小學校令第十一條第一項ニ依リ尋常小學校ノ教科目ヲ加除セントスルトキ

二 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第七條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ

經ルコトヲ要ス

一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ補習科ヲ設置廢止セントスルトキ

二 單級ノ編制ヲ多級ノ編制ニ改メントスルトキ

三 小學校令第十七條及第十八條ニ依リ尋常小學校ニ關シテ許可ヲ受ケントスルトキ

四 學校長教員ヲ任用解罷セントスルトキ

五 第二條第三ノ定員ニ滿タサル場合ニ於テ第二條第二ノ區域外ノ兒童ノ入學ヲ許サント
スルトキ

六 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第八條 代用私立小學校設立者ニ於テ市町村長等ニ報告スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事之ヲ
規定ス

第九條 代用私立小學校授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

代用私立小學校授業料ノ納付上ニ關シ設立者ノ取計ニ異存アル者ハ市町村若クハ町村組合
長ノ處分ヲ請フコトヲ得

第十條 代用私立小學校設立者ハ第二條第三ノ定員ニ滿タサル限りハ正當ノ理由ナクシテ第
二條第二ノ區域内ノ兒童ノ入學ヲ拒辭スルコトヲ得ス

代用私立小學校ノ入學上ニ關スル設立者ノ取計ニ就キテハ前條第二項ヲ適用ス

第十一條 監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ學政上ニ必要ナラス若クハ不利ナリト認定ス

第五類 第三章 私立小學校代用規則

ルトキハ其代用ヲ解除スヘシ

第十二條 市町村及町村學校組合ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ監督官廳ノ處分ヲ請フコトヲ得

代用私立小學校設立者ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ市町村若シハ町村學校組合ト協議ノ上市内ニ在ル學校ニ就テハ府縣知事町村内ニ在ル學校ニ就テハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ府縣知事若クハ郡長ノ處分ヲ請フコトヲ得

第十三條 代用私立小學校設立者ハ先ツ代用解除ノ許可ヲ經ルニアラサレハ其學校ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十四條 府縣知事ハ此規則中ノ條規ニ依リ難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

●小學校設備準則

(明治二十四年四月
文部省令第二號)

第一條 校地ハ日當リ好ク且成ルヘク開豁爽ナルヲ要ス

校地ハ喧鬧乾ニシテ授業ニ妨アル場所、危險ナル場所、道德上難忌スヘキ場所、停滯セル

池水其他凡テ惡臭アリ若クハ衛生上ニ害アル蒸發氣ヲ生スル場所ニ接近スヘカラス

校地ヲ擇フニ方リ衛生上ノ利害明ナラサルトキハ醫師ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第二條 校舎ニハ

天皇陛下及

皇后陛下ノ御影竝教育ニ關スル 勅語ノ謄本ヲ奉置スヘキ場所ヲ一定シ置クヲ要ス

第三條 校舎ハ成ルヘク平屋造ナルヲ要ス若シ二階造ナルトキハ成ルヘク幼年生ノ教室ヲ階下ニ置クコトヲ要ス

校舎ヲ新築スルニ方リテハ將來増加スヘキ生徒ノ員數ヲ見積リテ成ルヘク將來ノ増築ニ便宜ナル計畫ヲ爲シ又ハ成ルヘク豫備ノ教室ヲ設クルヲ要ス

第四條 各教室ノ大サハ其内ニ入ルヘキ机并席座ノ數、大サ及排置方ニ應シテ之ヲ定メ生徒四人ニ付凡一坪ヨリ小ナルヘカラス

各教室ハ一教員ノ同時ニ教授シ得ヘキ員數ノ生徒ヲ容ル、ヨリ大ナルヘカラス

第五條 校舎ハ生徒ノ帽、傘、雨衣、足駄等ヲ置クヘキ場所ヲ備ルヲ要ス校舎ハ成ルヘク階堂、物置等ヲ備フルヲ要ス

裁縫ノ科目ヲ設クル小學校ハ男女ヲ區別シテ教授セサル場合ニ於テハ該科目ノ爲成ルヘク特別ノ教室ヲ其校舎ニ備フルヲ要ス

手工又ハ工科ヲ設クル小學校ノ校舎ハ工作ノ實地練習ノ爲特別ノ教室ヲ備フルヲ要ス

大ナル小學校ノ校舍ハ圖書標本等ヲ置クカ爲成ルヘク特別ノ場所ヲ備フルヲ要ス

九十二

- 第六條 體操場ハ成ルヘク校舍ニ傍フテ備フルヲ要ス
- 第七條 農業練習所ハ成ルヘク校舍ニ遠サカラサルヲ要ス
- 第八條 校舍ニハ堀井戸又ハ水道等ニ依リテ飲料水ヲ供給スルノ備アルヲ要ス
- 第九條 便所ハ校舍外ニ於テ男女ヲ區別シテ備フルヲ要ス
- 第十條 校舍ニ傍フテ成ルヘク學校長若クハ首席教員ノ住居及菜園ヲ設クルヲ要ス
- 第十一條 校具ハ甲乙ノ二種トス

甲種ノ校具ハ專ラ教授ノ用ニ充ツル器具トス尋常小學校ニ於テハ假名ノ掛圖、教員用教科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、地球儀、定木、兩脚規、指數器、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、庶物指教用具ヲ備フルヲ常例トシ高等小學校ニ於テハ教員用教科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、萬國地圖、地球儀、定木、兩脚規、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、博物標本、理化器械、圖畫ノ手本、圖畫用具、裁縫用具、樂器、體操器械ヲ備フルヲ常例トシ其他ハ學校ノ等位、學級ノ編制又ハ教科若クハ教科目ノ種類ニ應シテ備フヘキモノトス

乙種ノ校具ハ國旗、門札、生徒用及教員用ノ机及腰掛(腰掛ヲ用フル學校ニ限ル)時計、諸帳簿、硯箱並附屬品、紙、書籍棚、戸棚、日用品其他學校ニ備付クルヲ必要トスル物件ニシテ甲種ノ校具ニ屬セサルモノトス

第十二條 生徒用ノ机及腰掛ノ構造ハ生徒ノ衛生上ニ害ナカラシメ及生徒ノ監視上等ニ便利ナラシムルヲ要ス

第十三條 第二條ニ掲グル場所校舍ノ内部、外部ノ壁、校舍ノ床、階梯、出入口、廊下、屋根、教室ノ天井、戸、梁、窓、便所、體操場、農業練習場、教員住居及井戸等ノ構造並教室天井ノ高さ、教室ノ幅及長さノ制限、暖室、通風、採光ノ方法等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情况ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十四條 校具ハ構造措置等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情况ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十五條 校舍、校地、校具等ノ掃除及保存ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情况ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十六條 設備規則中ノ條規ニシテ校舍ノ新築、校具ノ新調等ニ際スルニアサレハ適用シ難キモノハ其時ヲ待テ之ニ依ラシムヘキモノトス但猶豫スヘカラサル事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

●市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程 (明治二十五年四月 勅令第四十號)

第一條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中小學校ノ設置小學校ニ關スル府縣郡ノ負擔並郡視學務委員區長及其代理者ニ關スル條規ヲ除キ其他ノ條規ハ市町村制ヲ施行サ

ル地方ニ於テ左ノ例ニ依リ之ヲ施行ス

- 一 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ノ規程ニ依リ難キ場合アルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲナスコトヲ得
- 二 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ郡長ヲ置カサル地方ニ於テハ島司區長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ市長町村長若クハ市參事會ノ職務ハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

第二條 區町村ハ北海道廳長官府縣知事ノ指定スル區域及位置ニ於テ一小學校若クハ數小學校ヲ設置スヘシ

第三條 本令施行ノ時期ハ北海道廳長官府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第四條 明治十九年勅令第十四號小學校令其他本令ニ牴觸スル成規ハ本令施行ノ地方ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

●小學校教則大綱 (明治二十四年十一月 文部省令第十一號)

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ

徳性ノ涵養ハ教育上最モ意ヲ用フヘキナリ故ニ何レノ教科目ニ於テモ道德教育國民教育ニ關連スル事項ハ殊ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

知識技能ハ確實ニシテ實用ニ適センコトヲ要ス故ニ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相連絡シテ補益センコトヲ要ス

第二條 修身ハ教育ニ關スル 勅語ノ旨趣ニ基キ兒童ノ良心ヲ啓培シテ其徳性ヲ涵養シ人道實踐ノ方法ヲ授クルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ孝悌、友愛、仁慈、信實、禮敬、義勇、恭儉等實踐ノ方法ヲ授ケ殊ニ尊王愛國ノ志氣ヲ養ハントコトヲ務メ又國家ニ對スル義務ノ大要ヲ指示シ兼子テ社會ノ制裁廉耻ノ重ンスヘキコトヲ知ラシメ兒童ヲ誘キテ風俗品位ノ純正ニ趨カンコトニ注意スヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ陶冶ノ功ヲ堅固ナラシメンコトヲ務ムヘシ

女兒ニ在リテハ殊ニ貞淑ノ美德ヲ養ハントニ注意スヘシ

修身ヲ授ケルニハ近易ノ俚語及嘉言善行等ヲ例證シテ勸戒ヲ示シ教員身自ラ兒童ノ模範トナリ兒童ヲシテ浸潤薰染セシメンコトヲ要ス

第三條 讀書及作文ハ普通ノ言語並日常須知ノ文字、文句、文章ノ讀ミ方、綴リ方及意義ヲ知ラシメ適當ナル言語及字句ヲ用ヒテ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼子テ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ近易適切ナル事物ニ就キ平易ニ談話シ其言語ヲ練習シテ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ次ニ假名ノ短文及近易ナル漢字交リノ短文ヲ授ケ漸ク進ミテ

ハ讀書作文ノ教授時間ヲ別子讀書ハ假名文及近易ナル接字交リ文ヲ授ク作文ハ假名文、近易ナル漢字交リ文、日用書類等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ讀書ハ普通ノ漢字交リ文ヲ授ケ作文ハ漢字交リ文及日用書類ヲ授クヘシ

讀書作文ヲ授クル際單語、短句、短文等ヲ書取ラシメ若クハ改作セシメテ假名及語句ノ用法ニ熟セシムヘシ

讀本ノ文章ハ平易ニシテ普通ノ國文ノ模範タルヘキモノナルヲ要ス故ニ兒童ニ理會シ易クシテ其心悟ヲ快活純正ナラシムルモノヲ採ルヘク又其事項ハ修身、地理、歴史、理科其他日常ノ生活ニ必須ニシテ教授ノ趣味ヲ添フルモノタルヘシ

作文ハ讀書又ハ其他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項、兒童ノ日常見聞セル事項及處出ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ行文平易ニシテ旨趣明瞭ナラシメンコトヲ要ス

言語ハ他ノ教入目ノ教授ニ於テモ常ニ注意シテ練習セシメンコトヲ要ス

第四條 習字ハ通常ノ文字ノ書キ方ヲ知ラシメ運筆ニ習熟セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ片假名及平假名、近易ナル漢字交リノ短句、通常ノ人名、苗字、物品、地名等ノ日用文字及日用書類ヲ習ハシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ事項ヲ擴メ更ニ日常適切ノ文字ヲ増シ又日用書類ヲ習ハシムヘシ

漢字ノ書體ハ尋常小學校ニ於テハ行書若クハ楷書トシ高等小學校ニ於テハ楷書行書草書トス

習字ヲ授クル際殊ニ姿勢ヲ整ヘ執筆及運筆ヲ正シクシ字行ハ整正ヲ尙ヒ運筆ハ務メテ速カナラシメンコトヲ要ス

他ノ教科目ノ教授ニ於テ文字ヲ書カシムルコトアルトキハ亦常ニ其字形及字行ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

第五條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ兼子テ思想ヲ精密ニシ傍ラ生業上有益ナル知識ヲ與フルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初メ八十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計ヘ方及加減乗除ヲ授ケ漸ク數ノ範圍ヲ擴メテ萬以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル加減乗除及通常ノ小數ノ計ヘ方ヲ授クヘシ

初年ヨリ漸ク度量衡貨幣及時刻ノ制ヲ授ケ之ヲ日常ノ事物ニ應用シテ其計算ニ習熟セシムヘシ

尋常小學校ニ於テ筆算若クハ珠算ヲ用ヒ又ハ筆算珠算ヲ併セ用フルハ土地ノ情況ニ依ルヘシ

高等小學校ニ於テハ筆算ヲ用ヒ初メハ度量衡貨幣及時刻ノ計算ヲ練習セシメ漸ク進ミテハ簡易ナル比例問題ト通常ノ分數小數トヲ併セ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ稍複雑ナル比例問題及日常適切ノ百分算ヲ授ケ土地ノ情況ニ依リテハ開平開立及簡易ナル求積若クハ

日用簿記ノ概略ヲ授ケ又ハ珠算ヲ用ヒテ加減乘除ヲ授クヘシ但尋常小學校ニ於テ珠算ノミ
ヲ學ヒタル者ニハ最初筆算ヲ用ヒテ加減乘除ヲ授クヘシ
算術ヲ授クルニハ理會精密ニ運算習熟シテ應用自在ナラシメンコトヲ務メ又常ニ正確ナル
言語ヲ用ヒテ運算ノ方法及理由ヲ説明セシメ殊ニ暗算ニ熟達セシメンコトヲ要ス
算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項ヲ適用シ又ハ土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切
ノモノヲ選ブヘシ

第六條 日本地理及外國地理ハ日本ノ地理及外國地理ノ大要ヲ授ケテ人民ノ生活ニ關スル重
要ナル事項ヲ理會セシメ兼子テ愛國ノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本地理ヲ加フルトキハ郷土ノ地形方位等兒童ノ日常目撃セル事物ニ
就キテ端緒ヲ開キ漸ク進ミテ本邦ノ地形、氣候、著名ノ都會、人民ノ生業等ノ概略ヲ授ケ
更ニ地球ノ形狀、水陸ノ別其他重要ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ日本地理ハ前項ニ準シハ稍詳ニ之ヲ授ケ更ニ地球ノ運動、晝夜四季
ノ理由ヲ理會セシメ外國地理ハ大洋大洲五帶ノ別、各大洲ノ地形、氣候、產物、人種及支
那朝鮮其他本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ概略ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ
既ニ授ケタル日本地理ヲ復習シテ稍詳ニ人民ノ生活ニ關スル重要ナル事項ヲ授ケ兼子テ簡
易ナル經濟上ニ關係ヲ理會セシムヘシ
地理ヲ授ケタルニハ實地ノ觀察ニ基キ又地球儀地圖寫眞等ヲ示シ兒童ノ熟知セル事物ニ依リ

比較類推セシメテ確實ナル知識ヲ得シメ又常ニ歷史上ノ事實ニ連絡セシメンコトヲ要ス

第七條 日本歴史ハ本邦國體ノ大要ヲ知ラシメテ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本歴史ヲ加フルトキハ郷土ニ關スル史談ヨリ始メ漸ク建國ノ體制
皇統ノ無窮 歷代天皇ノ 盛業、忠良賢哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來等ノ概略ヲ
授ケテ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ノ大要ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シテ稍詳ニ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ授クヘシ

日本歴史ヲ授ケタルニハ成ルヘク圖畫等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ人
物ノ言行等ニ就キテハ之ヲ修身ニ於テ授ケタル格言等ニ照ラシテ正邪是非ヲ辨別セシメン
コトヲ要ス

第八條 理科ハ通常ノ天然物及現象ノ觀察ヲ精密ニシ其相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理
會セシメ兼子テ天然物ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

最初ハ主トシテ學校所在ノ地方ニ於ケル植物動物礦物及自然ノ現象ニ就キテ兒童ノ目撃シ
得ル事實ヲ授ケ就中重要ナル植物動物ノ形狀構造及生活發育ノ狀態ヲ觀察セシメテ其大要
ヲ理會セシメ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ植物動物ノ相互及人生ニ對スル關係、通常ノ物
理上化學上ノ現象、通常兒童ノ目撃シ得ル器械ノ構造作用等ヲ理會セシメ兼子テ人身ノ生
理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ

クル際之ヲ以テ製スル重要ナル人工物ノ製法効用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ
理科ヲ授クルニハ質地ノ觀察ニ基キ若クハ標本模型圖畫等ヲ示シ又ハ簡單ナル試驗ヲ施シ
明瞭ニ理會セシメンゴトヲ要ス

第九條 圖畫ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ養ヒ兼子テ意匠
ヲ練リ形體ノ美ヲ辯知セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ圖畫ヲ加フルトキハ直線曲線及其單形ヨリ始メ時々直線曲線ニ基キタ
ル諸形ヲ工夫シテ之ヲ畫カシメ漸ク進ミテハ簡單ナル形體ヲ畫カシムヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク進ミテハ諸般ノ形體ニ移リ實物若クハ手本ニ就
キテ畫カシメ又時々自己ノ工夫ヲ以テ圖案セシメ兼子テ簡易ナル用器畫ヲ授クヘシ

圖畫ヲ授クルニハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目撃セル物體中ニ就キテ之
ヲ畫カシメ兼子テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尚フノ習慣ヲ養ハントヲ要ス

第十條 唱歌ハ耳及發聲器ヲ練習シテ容易キ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼子テ音樂ノ美ヲ辨知
セシメ徳性ヲ涵養スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ唱歌ヲ加フルトキハ通常譜表ヲ用ヒスシテ容易キ單音唱歌ヲ授クヘシ
高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク譜表ヲ用ヒテ單音唱歌ヲ授クヘシ

歌詞及樂譜ハ成ルヘク本邦古今ノ名家ノ作ニ係ルモノヨリ之ヲ撰ヒ雅正ニシテ兒童ノ心情
ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

第十一條 體操ハ身體ノ成長ヲ均齊ニシテ健康ナラシメ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼子
テ規律ヲ守ルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ最初適宜ノ遊戲ヲナサシメ漸ク普通體操ヲ加ヘ男兒ニハ便宜兵式體操
ノ一部ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ男兒ニハ主トシテ兵式體操ヲ授ケ女兒ニハ普通體操若クハ遊戲ヲ授ク
ヘシ

土地ノ情況ニ依リテハ體操ノ教授時間ノ一部若クハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲ
ナサシメ又夏季ニ於テハ水泳ヲ授クルコトアルヘシ

體操ノ教授ニ依リテハ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメンコトヲ要ス
第十二條 裁縫ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ衣服ノ縫方及裁方ニ習熟セシムルヲ以テ要旨ト
ス

尋常小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルトキハ選針法ヨリ始メテ簡易ナル衣服ノ縫方ヲ授ケ又便
宜通常ノ衣服ノ繕ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク通常ノ衣服ノ縫方裁方ヲ授クヘシ
裁縫ノ品類ハ日常所用ノモノヲ撰ヒ之ニ授クル際用具ノ種類、衣類ノ保存方及洗濯方等ヲ

教示シ常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハントヲ要ス
第十三條 手工ハ眼及手ヲ練習シテ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ養ヒ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ

長スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙、絲、粘土、麥莖等ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ

高等小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙、粘土、木、竹、銅線、蠟葉、鉛等ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ

手工ノ品類ハ成ルヘク有用ナルモノヲ撰ビ之ヲ授クル際其材料及用具ノ種類等ヲ教示シ常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハントトシテ要ス

第十四條 高等小學校ノ教科ニ幾何ノ初歩ヲ加フルトキハ簡易ナル線角面體ノ性質及種類ヲ知ラシメ尙進ミテハ三角形ノ同形類形及勾股並ノ關係等ヲ理會セシムヘシ

幾何ノ初歩ヲ授クルニハ先ツ器具家屋地形等ヲ觀察セシメ更ニ其模型若クハ圖ヲ示シ兒童ヲシテ之ヲ畫キ其尺度又ハ角度ヲ測定比較シテ其性質關係ヲ知ラシメ專ラ實驗ニ依リテ證明シ又既ニ授ケタル事項ヲ應用シ諸種ノ線形等ヲ構成シテ其度量ヲ計算セシメ之ヲ實地ニ應用スルノ能ヲ養ハントトシテ要ス

第十五條 高等小學校ノ教科ニ外國語ヲ加フルハ將來ノ生活上其知識ヲ要スル兒童ノ多キ場合ニ限ルモノトシ讀方、譯解、習字、書取、會話、文法及作文ヲ授ケ外國語ヲ以テ簡易ナル會話及通信等ヲナスコトヲ得シムヘシ

外國語ヲ授クルニハ常ニ其發音及方法ニ注意シ正シキ國語ヲ用ヒテ譯解セシメントトシテ要ス

ス

第十六條 高等小學校ノ教科ニ農業ヲ加フルトキハ地理理科等ノ教授ニ連絡シテ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ關シ土地ノ情況ニ緊切ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ授ケ便宜之ヲ實習セシメテ農業ノ趣味ヲ長シ兼テ節約利用、勤勉儲蓄ノ習慣ヲ養ハントトシテ要ス

第十七條 高等小學校ノ教科ニ商業ヲ加フルトキハ算術地理等ノ教授ニ連絡シテ商店、會社、賣買、金融、運送、保險等ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理會シ易キモノヲ撰ヒ習慣及法令等ニ基キテ之ヲ授ケ又簡易ナル商用簿記ヲ授クヘシ

第十八條 府縣知事ハ第二條乃至第十七條ニ掲グル範圍内ニ於テ學級ノ編制及修業年限ニ應シ便宜各教科目教授ノ程度ヲ規定スルヲ要ス

第十九條 尋常小學校ノ教授ト高等小學校ノ教科トナ一校ニ併セ置クトキハ兩教科ヲ連絡セシメントカ爲メ便宜各教科目教授ノ程度ヲ斟酌スルコトヲ得

第二十條 小學校長若クハ首席教員ハ小學校教則ニ從ヒ其小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十一條 小學校ニ於テ兒童ノ學業ヲ試驗スルハ專ラ學業ノ進歩及習熟ノ度ヲ檢定シテ教授上ノ參考ニ供シ又ハ卒業ヲ認定スルヲ以テ目的トスヘシ

第二十二條 小學校長若クハ首席教員ハ修業年限ノ終リニ於テ兒童ノ學業ノ成績ヲ考ヘ小學

校教則ニ定メタル課程ヲ完了セリト認定スルトキハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第二十三條 補習科ハ尋常小學校長若クハ高等小學校ニ於テ兒童ノ既ニ學習シタル事項ヲ練習補充シ殊ニ之ヲ實地ニ應用スルノ法ヲ授ケテ處世ニ資セシムルヲ以テ要旨トス

補習科ノ程度ハ尋常小學校若クハ高等小學校ノ教科ノ程度ヲ標準トシ兼テ人民ノ生活上必須ナル事項ヲ加ヘ授ケンコトヲ要ス

補習科ニ於テ授クル事項ハ總テ實際ノ業務ト密接ノ關係ヲ有スルモノタルヘシ故ニ農工商等其地方ノ生業ニ最モ適切ナルモノヲ撰ヒテ之ヲ授クヘシ

第二十四條 補習科ノ教授時間ハ成ルヘク實際ノ業務ニ従事スル者ノ便ヲ圖リ夜間休業日又ハ其他通常ノ教授時間外ニ於テ之ヲ定ムヘシ

●學級編制等ニ關スル規則 (明治二十四年十一月 文部省令第十二號)

第一條 小學校ニ於テハ此規則ニ依リ學級ヲ編制シ及教員ヲ配置スヘシ

全校兒童ヲ一學級ニ編制スルモノ之ヲ單級ノ學校トシ二學級以上ニ編製スルモノ之ヲ多級ノ學校トス

小學校ニ於テ全校兒童ヲ二學級以上ニ編制スル場合ニ於テハ兒童ノ學力及年齡ヲ斟酌シ學級ヲ別ツヘシ

第二條 市町村立尋常小學校ニ於テ學級ヲ編制スルニハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 全校兒童ノ數七十人未滿ナルトキハ一學級ニ編制スヘシ

二 全校兒童ノ數七十人以上百四十人未滿ナルトキハ二學級ニ編制スヘシ但七十人以上百人未滿ナルトキハ一學級ニ編制スルコトヲ得

三 全校兒童ノ數百四十人以上ナルトキハ一學級兒童ノ數平均凡五十人乃至七十人ノ割合ヲ以テ適宜學級ヲ編制スヘシ

四 同學年ノ女兒ノ數一學級ヲ組織スルニ足ルトキハ該學年ノ男女學級ヲ別ツヘシ但第一學年及第二學年ニ於テハ此限ニ在ラス

前項第二款本文及第三款ノ場合ニ於テハ一學級兒童ノ數百人ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 市町村立高等小學校ニ於テ學級ヲ編制スルニハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 全校兒童ノ數六十人未滿ナルトキハ一學級ニ編制スヘシ

二 全校兒童ノ數六十人以上百二十人未滿ナルトキハ二學級ニ編制スヘシ但六十人以上八十人未滿ナルトキハ一學級ニ編制スルコトヲ得

三 全校兒童ノ數百二十人以上ナルトキハ一學級兒童ノ數平均四十人乃至六十人ノ割合ヲ以テ適宜學級ヲ編制スヘシ

四 全校女兒ノ數一學級ヲ組織スルニ足ルトキハ男女學級ヲ別ツヘシ前項第二款本文及第三款ノ場合ニ於テハ一學級兒童ノ數八十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 市町村立尋常小學校ニ於テ教員ヲ配置スルニハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 單級ノ學校ニ於テハ全校兒童ノ數七十人未滿ナルトキハ本科正教員一人ヲ置キ七十人以上ナルトキハ本科正教員一人及本科准教員(補助教授スル者)一人ヲ置クヘシ
- 二 多級ノ學校ニ於テハ兒童ノ數七十人未滿ノ學級ニ就キテハ本科正教員一人ヲ置キ七十人以上ノ學級ニ就キテハ本科正教員一人及本科准教員(補助教授スル者)一人ヲ置クヘシ

三 前二款ノ場合ニ於テ本科教員ヲ置ク外適宜専科教員ヲ置クコトヲ得

第五條 市町村立高等小學校ニ於テ教員ヲ配置スルニハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 單級ノ學校ニ於テハ全校兒童ノ數六十人未滿ナルトキハ本科正教員一人ヲ置キ六十人以上ナルトキハ本科正教員一人及本科准教員(補助教授スル者)一人ヲ置クヘシ
- 二 多級ノ學校ニ於テハ兒童ノ數六十人未滿ノ學級ニ就キテハ本科正教員一人ヲ置キ六十人未滿ノ學級ニ就キテハ本科正教員一人及本科准教員(補助教授スル者)一人ヲ置クヘシ

三 前二款ノ場合ニ於テ本科教員ヲ置ク外適宜専科教員ヲ置クコトヲ得

第六條 私立小學校ニ於テハ適宜學級ヲ編制スヘシ但一學級兒童ノ數尋常小學校ニ於テハ百人高等小學校ニ於テハ八十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 私立小學校ニ於テハ一學級ニ就キテ本科正教員一人ヲ置クヘシ但一學級兒童ノ數尋常小學校ニ於テハ八十人ヲ超ユルコトヲ得ス

常小學校ニ於テ七十人以上高等小學校ニ於テ六十人以上ナルトキハ更ニ本科准教員(補助教授スル者)ヲ置クヘシ

第四條第三款及第五條第三款ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス

第八條 多級ノ學校ニ於テハ教科目ノ種類ニ依リ一人ノ本科正教員數學級又ハ其一部ノ兒童ヲ合シテ同時ニ教授スルコトヲ得

單級又ハ多級ノ學校ニ於テ専科教員ハ某教科目ニ限り一學級若クハ數學級又ハ其一部ノ兒童ヲ教授スルコトヲ得

第九條 尋常小學校ニ於テハ左ノ場合ニハ全校ノ兒童ヲ二部ニ區分シ其一部ノ教授了ル後他ノ一部ヲ教授スルコトヲ得

- 一 全校兒童ノ數七十人以上百人未滿ニシテ本科正教員一人及本科准教員補助教授スル者一人ヲ置クコト能ハサルトキ
 - 二 全校兒童ノ數百人以上百四十人未滿ニシテ本科正教員二人ヲ置クコト能ハサルトキ
 - 三 同時ニ全校ノ兒童ヲ容ルルニ足ルヘキ教室ヲ設クルコト能ハサルトキ
- 前項ノ場合ニ於テハ毎日ノ教授時間ヲ各部三時トナシ若クハ年長ノ部ヲ四時、年少ノ部ヲ二時トナスヘシ

第十條 教室狹隘等ノ爲メ又ハ特別ノ事情アル爲メ市町村立小學校ニ於テ第二條乃至第五條ノ例ニ依リ難キトキ又ハ前條ノ場合アルトキハ其市町村ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

特別ノ事情アルカ爲メ私立小學校ニ於テ前條ノ場合アルトキハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 小學校ニ於テ三學級以上ヲ設クルトキハ學校長ヲ置クヘシ

●學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件 (明治二十四年十一月 文部省令第十六號)

第一條 父母後見人戸主ハ左ノ順序ニ從ヒ學齡兒童ヲ保護スヘキモノトス但學齡兒童戸主タルトキハ第二條ニ依ルヘシ

一 父母

二 父母及戸主父母共ニ戸主タラサルトキ

三 後見人、父母死亡シタルトキ又ハ父母生存スルモ失踪、心神喪失又ハ其他ノ事故ニ依リ其義務ヲ行フコト能ハサルトキ

四 後見人及戸主前條ノ場合ニ於テ後見人戸主タラサルトキ

前項ノ場合ニ於テ授業料及其他就學ニ關スル費用ハ戸主之ヲ負擔スヘシ

第二條 學齡兒童戸主タルトキハ父母後見人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ保護スヘキモノトス

一 父母

二 後見人、父母死亡シタルトキ又ハ父母生存スルモ失踪、心神喪失又ハ其他ノ事故ニ依リ其義務ヲ行フコト能ハサルトキ

前項ノ場合ニ於テ授業料及其他就學ニ關スル費用ハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ於テ戸主ノ財産ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第三條 第一條及第二條ニ於テ定ムルモノ、外府縣知事ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ便宜備主師匠等ニ就キテ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムルヘキ要件ヲ定ムルコトヲ得

第四條 第一條及第二條ニ掲グル學齡兒童ヲ保護スヘキ者其義務ヲ行フニ不便ナル場合ニ於テハ代人ヲ立ツヘシ

第一條及第二條ニ掲グル學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ於テ特別ノ事情アルカ爲メ代人ヲ立ツルコトヲ必要トスルトキハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ
代人ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

●尋常師範學校附屬小學校規程 (明治二十四年十一月 文部省令第二十六號)

第一條 附屬小學校ハ明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令中小學校ノ本旨種類教科目修業年限教則教授時間ノ制限教科用圖書祝日大祭日ノ儀式休業日補習科等ニ關スル規程ニ準據スヘシ但教科目ノ加除補習科ノ設置廢止及修業年限ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 附屬小學校ノ設備ハ管内最多數ノ小學校ノ設備ヲ例トシ本年(十一月)文部省令第十五號小學校設備準則ニ準據シ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條

附屬小學校ノ學級ノ編制等ハ管内最多數ノ小學校ノ學級ノ編制等ヲ例トシ本年(十一月)文部省令第十二號小學校ノ學級編制等ニ關スル規則ニ準據シ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ但單級ノ制ニ依リタル學級ハ必ス之ヲ設クルコトヲ要ス

第四條

附屬小學校ノ授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ但單級ニ編制シタル兒童ノ授業料ハ之ヲ徵收セサルモノトス

第五條

附屬小學校ノ教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スルコトヲ要ス

●小學校祝日大祭日儀式規程

(明治二十四年六月) 文部省令第四號

第一條 紀元節、天長節、元始祭、神嘗祭及新嘗祭ノ日ニ於テハ學校長、教員及生徒一同式場ニ參集シテ左ノ儀式ヲ行フヘシ

一 學校長教員及生徒

天皇陛下及

皇后陛下ノ

御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行ヒ且

兩陛下ヘ萬歲ヲ奉祝ス

但未タ御影ヲ拜戴セサル學校ニ於テハ本文前段ノ式ヲ省ク

二 學校長若クハ教員、教育ニ關スル 勅語ヲ奉讀ス

三 學校長若クハ教員、恭シク教育ニ關スル 勅語ニ基キ

聖意ノ在ル所ヲ誨告シ又ハ

歷代天皇ノ 盛德 鴻業ヲ叙シ若クハ祝日大祭日ノ由來ヲ叙スル等其祝日大祭日ニ相應スル演說ヲ爲シ忠君愛國ノ志氣ヲ涵養センコトヲ務ム

四 學校長、教員及生徒、其祝日大祭日ニ相應スル唱歌ヲ合唱ス

第二條 孝明天皇祭、春季皇靈祭、神武天皇祭及秋季皇靈祭ノ日ニ於テハ學校長、教員及生徒一同式場ニ參集シテ第一條第三款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ

第三條 一月一日ニ於テハ學校長、教員及生徒一同式場ニ參集シテ第一條第一款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ

第四條 第一條ニ掲グル祝日大祭日ニ於テハ便宜ニ從ヒ學校長及教員、生徒ヲ率キテ體操場ニ臨ミ若クハ野外ニ出テ遊戯體操ヲ行フ等生徒ノ心情ヲシテ快活ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第五條 市町村長其他學事ニ關係アル市町村吏員ハ成ルヘク祝日大祭日ノ儀式ニ列スヘシ

第六條 式場ノ都合ヲ計リ生徒ノ父母親戚及其他市町村住民ニシテ祝日大祭日ノ儀式ヲ參觀スルコトヲ得セシムヘシ

第七條 祝日大祭日ニ於テ生徒ニ茶菓又ハ教育上ニ裨益アル繪畫等ヲ與フルハ妨ナシ

第八條 祝日大祭日ノ儀式ニ關スル次第等ハ府縣知事之ヲ規定スヘシ

●簡易農學校規程 (明治二十七年七月) 文部省令第十九號

第五類 第三章 簡易農學校規程

百十一

第一條 簡易ナル方法ニ依リ農事教育ヲ施サントスル者ハ此ノ規程ニヨルヘシ

第二條 簡易農學校ノ學科ハ算術、物理化學博物ノ大要、耕種、園藝、肥料、土壤、排水、灌溉、害虫、養畜、農産製造、氣象、農業工事、農業經濟ノ類トシ地方ノ情況ニ依リ斟酌シ又ハ併合シノ教授スルヲ要ス又水産、森林、養蠶獸醫ノ科目ヲ加フルコトヲ得

第三條 簡易農學校ハ農隙又ハ其他便宜ノ時期ヲ選ミ之ヲ開設スルコトヲ得

地方ノ狀況ニヨリ必要ノ各地ニ分教場ヲ設置シ巡回教授ノ方法ニヨリテ教授ヲナスコトヲ得

第四條 簡易農學校ニ入學スル生徒ハ年齢十四年以上トス

第五條 簡易農學校ニ於テハ農業者又ハ農事ニ篤志ナル者ヲ以テ商議員トナシ其ノ學校ニ關スル事件ヲ商議セシムルコトヲ得

第六條 簡易農學校ニ於テハ授業料ヲ徴收スルト否トハ各地方ノ便宜タルヘシ

第七條 水産養蠶獸醫ヲ専修スル簡易學校ハ此ノ規程ニ準スヘシ

第四章 學校職員

●小學校教員免許規則 (明治十九年六月、文部省令第百十二號)

第一條 小學校教員免許狀ハ師範學校卒業生及男子ハ丁年以上女子ハ齡十八年以上ニシテ小

學校教員學力檢定試験ニ及第シタルモノニ之ヲ授與スルモノトス

但尋常師範學校女子ノ卒業生及小學校教員學力檢定試験ニ及第シタル女子ニハ尋常小學科(男兒女兒)ノ教員免許狀若クハ高等小學校(女兒)ノ教員免許狀ヲ授與ス

- 第二條 小學校教員免許狀ハ普通免許狀地方免許狀ノ二種トス
- 第三條 普通免許狀ハ文部大臣ヨリ授與シ全國ニ通シテ有効ノモノトス
- 第四條 地方免許狀ハ府縣知事ヨリ授與シ其管轄地方ニ限り有効ノモノトス
- 第五條 普通免許狀ハ無期有効ノモノトス
- 第六條 地方免許狀ハ有期若クハ無期有効ノモノトス
- 第七條 有期ノ地方免許狀ハ五箇年ヲ以テ一期トス期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニ依リ適任ノモノト認ムルトキハ更ニ免許狀ヲ授與スルモノトス
- 第八條 有期ノ地方免許狀ヲ有シ五箇年以上勤務ノモノニハ其經歷ニ依リ適任ノモノニ限り無期ノ地方免許狀ヲ授與スルモノトス
- 第九條 普通免許狀ハ高等師範學校卒業生若クハ地方免許狀ヲ有シテ五箇年以上勤務シ學術授業トモ超衆ノモノニ之ヲ授與スルモノトス
- 第十條 有期ノ地方免許狀ハ尋常師範學校卒業生若クハ小學校教員學力檢定試験ニ及第シタルモノニ之ヲ授與スルモノトス
- 第十一條 小學校教員學力檢定試験ハ尋常師範學校及其程度ニ據リテ之ヲ施行スヘシ

但一科若クハ數科ニ限リタル教員學力驗定試験モ本文ニ準スヘシ

第十二條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收スヘシ

但本文免許狀ヲ沒收シタルモノアルトキハ府縣知事ヨリ其族籍姓名并事由ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

一 新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一 荒飢暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一 舊法ニ依リ懲役若クハ禁獄若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一 前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老少癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ

第十三條 前條ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノト雖モ府縣知事ニ於テ特ニ小學校教員タラシメントスルトキハ其族籍姓名并事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 小學簡易科教員及小學校授業生免許規則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十五條 小學校教員學力驗定試験ヲ受クルモノ及小學校教員免許狀ヲ受クルモノハ其手数料ヲ納ムヘシ

學力驗定試験手数料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ又該手数料ハ願下ヲナシ若クハ試験ニ應セサルトキト雖モ之ヲ還付セサルモノトス

第十六條 小學校教員學力驗定試験ニ係ル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十七條 小學校教員免許狀ノ書式左ノ如シ (免許狀書式略之)

市町村立小學校教員任用令 (明治二十六年十二月 勅令第二百六十號)

第一條 市町村立小學校教員ハ市長又ハ郡長ノ推薦ニ由リ小學校教員銓衡委員ノ銓衡ヲ經テ府縣知事之ヲ任ス

第二條 小學校教員銓衡委員ハ府縣知事ノ指命スル所ノ府縣高等官及判任官各一人尋常師範學校長及其ノ教員二人ヲ以テ組織ス

第三條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第五十九條第一項第二項第三項ハ删除ス

尋常師範學校教員免許規則 (明治二十五年七月 文部省令第十三號)

第一條 尋常師範學校教員免許狀ハ文部省ノ檢定ニ合格シタル者ニ授與スルモノトス

第五類 第四章 市町村立小學校教員任用令○尋常師範學校教員免許規則 百十五

第二條 免許狀ハ之ヲ分テ一等免許狀二種免許狀ノ二トス

二等免許狀ハ第一次ノ檢定ニ合格シタル者ニ授與シ一等免許狀ハ第二次ノ檢定ニ合格シタル者ニ授與スルモノトス

尋常師範學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有シ一箇年以上教員ノ職ニ在リタル者及特別ノ事情アリト認ムル者ニ限り前項ノ規程ニ拘ラス第一次ノ檢定ニ合格シタル者ニ直ニ一等免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第三條 一等免許狀ヲ有スル者ハ尋常師範學校教諭二等免許狀ヲ有スル者ハ同助教諭タルコトヲ得ルモノトス

第四條 第一次ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

- 一 年齢男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上
- 二 身體健全
- 三 品行方正

第五條 第一次ノ檢定ハ之ヲ分テ左ノ二種トス

- 甲種 認定
- 乙種 試験

第六條 甲種ノ檢定ハ左ニ掲クル者ニ限り之ヲ行フモノトシ第八條第九條ニ掲クル科目及其程度ヲ参照シテ其學力及經歷ヲ調査スルモノトス

一 高等師範學校女子高等師範學校卒業生

二 高等學校ニ於テ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生

三 尋常師範學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

四 其他學力品行等ニ關シ北海道廳長官府縣知事ニ於テ特ニ適任ト思慮スル者

第七條 乙種ノ檢定ハ學力ノ試験ヲ行フモノトス

家事、圖畫、音樂、體操等ノミノ教員タラントスル者ニ就キテハ別ニ普通ノ學力ヲ有スルコトヲ認メタル者ニアラサレハ試験ヲ行ハス

試験ノ方法ハ筆記口述ノ二様トシ試験科目ノ種類ニ依リテハ技能又ハ實驗ヲ併セ試ミルモノトス

第八條 男教員ノ試験科目ハ左ノ區別ニ從ヒ受験者ノ志願ニ依ル

第一類

第一種 修身、教育、國語及漢文並其教授法

第二種 修身、教育、歴史及地理並其教授法

第三種 數學、物理及化學並其教授法

第四種 植物、動物、生理及礦物並其教授法

第二類

第一種 習字、圖畫、音樂、體操、外國語、農業、商業、手工ノ中一科目若クハ數科目

第五類 第四章 市町村立小學校教員任用令〇尋常師範學校教員免許規則

並其教授法

第二種 第一類各種ノ科目ノ中一科目若クハ數科目並其教授法

本條各科目ノ試験程度ハ高等師範學校ノ學科目ノ程度ニ準ス

第九條 女教員ノ試験科目ハ左ノ區別ニ從ヒ受験者ノ志願ニ依ル

第一類

第一種 修身、教育、國語、漢文、歴史及地理並其教授法

第二種 數學及理科並其教授法

第二類

第一種 家事、習字、圖畫、音樂、體操ノ中一科目若クハ數科目並其教授法

第二種 第一類各種ノ科目ノ中一科目若クハ數科目並其教授法

本條各科目ノ試験程度ハ女子高等師範學校ノ學科目ノ程度ニ準ス

第十條 左ニ掲グル者ニシテ乙種ノ檢定ヲ請ヒタルトキハ其學力ヲ第八條第九條ニ掲グル科目及其程度ニ對照シ同等以上ト認ムルトキハ其一科目若クハ數科目ノ試験ヲ缺グコトヲ得

一 高等學校ノ卒業生

二 尋常師範學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

第十一條 高等師範學校女子高等師範學校卒業生ノ第一次ノ檢定ハ當該學校長ノ申請ニ依リ之ヲ行フ

他ノ文部省直轄學校卒業生ノ第一次ノ檢定ハ前項ノ例ニ準スルコトアルヘシ

第六條第四款ニ該當スル者ノ第一次ノ檢定ハ北海道廳長官府縣知事ノ申請ニ依リ之ヲ行フ

第十二條 前條ニ掲グル者ニアラスシテ第一次ノ檢定ヲ請フ者ハ族籍氏名宿所生年月志願ノ

科目及甲種乙種ノ別ヲ記シタル願書ニ醫師ノ身體檢査證學業賞罰等ニ關スル履歷書學業證書免許狀等ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ之ヲ文部省ニ差出スヘシ北海道長官廳府縣知事ハ本人ノ品行ニ就キ意見ヲ附記シテ文部大臣ニ差出スヘシ

前項ノ身體檢査證ハ體格疾病及官能ニ係ル檢査ノ成績ヲ證明シタルモノタルヘシ

第十三條 第二次ノ檢定ハ二等免許狀ヲ有シ一箇年以上教員ノ職ニ在リタル者ニ就キ其勤務ノ履歷及學力等ヲ調査スルモノトス

第十四條 第二次ノ檢定ヲ請フ者ノ出願ノ手續ハ第十二條ノ例ニ準ス

第十五條 檢定ハ文部大臣檢定委員又ハ高等師範學校若クハ女子高等師範學校ヲシテ之ヲ施行セシム第一次ノ甲種檢定及第二次ノ檢定ハ臨時之ヲ行ヒ第一次ノ乙種檢定ハ豫メ期日ヲ定メテ之ヲ行フ

第十六條 檢定ヲ請フ者ハ檢定手数料貳圓ヲ納ムヘシ但第十一條ニ依ル者ハ此限ニ在ラス

前項ノ檢定手数料ハ其既ニ差出シタル後何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

第十七條 免許狀ノ書式ハ左ノ如シ但甲種ハ高等師範學校女子高等師範學校卒業生乙種ハ其他ノ者ニ與フルモノトス (書式略之)

甲號乙號トモ一等免許狀ノ輪廓ハ綠色トシ二等免許狀ノ輪廓ハ紅色トス

第十八條 免許狀ヲ受ケル者ハ免許狀授與手數料壹圓ヲ納ムヘシ但第十一條ニ依ル者ハ此限ニ在ラス

第十九條 免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名ヲ變更シタル爲メ其書換ヲ請フ者ハ書換手數料壹圓ヲ納ムヘシ

第二十條 免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍等ハ文部省ニ於テ尋常師範學校教員候補者ノ名籍ニ登錄シ時々之ヲ公告ス

第二十一條 免許狀ヲ有スル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其免許狀ヲ褫奪ス但特別ノ事情アル者ハ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ

二 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

三 荒蕪暴激其他總テ教員タルノ面目ニ關スル行爲アルトキ

第二十二條 北海道廳長官府縣知事ニ於テ前條ノ處分ヲ要スル者アリト思慮スルトキハ文部大臣ニ具申スヘシ

第二十三條 此規則ニ依ラスシテ授與シタル尋常師範學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ効ヲ有スル免許狀卒業證書ハ仍其効力ヲ有スルモノトス

第二十四條 此規則ニ牴觸スル従前ノ成規ハ此規則施行ノ時期ヨリ之ヲ廢止ス

●小學校教員檢定等ニ關スル規則 (明治二十四年十一月) (文部省令第十九號)

第一章 府縣ニ於ケル檢定等

第一條 小學校教員檢定委員ハ府縣官吏並尋常師範學校長及教員ヲ組織シ府縣知事之ヲ命スヘシ

府縣知事ハ檢定委員中ニ就キ委員長ヲ命スヘシ

第二條 小學校教員檢定委員ハ此規則ニ依リ檢定ヲ行ヒ委員長ヨリ其成績ヲ府縣知事ニ具申スヘシ

第三條 前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ相當ノ免許狀ヲ授與スヘシ但第七條第七款ニ該當スル者ニ正教員免許狀ヲ授與スル場合ニハ豫メ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第四條 正教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 准教員ノ免許狀ヲ有シ一箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシコト但第七條第七款ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス

二 年齡男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上

三 身體健全

四 品行方正

第五類 第四章 小學校教員檢定等ニ關スル規則

第五條 准教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

- 一 年齢男子ハ十七年以上女子ハ十五年以上
- 二 身體健全
- 三 品行方正

第六條 檢定ハ之ヲ別チテ左ノ二種トス

甲種 認定

乙種 試験

第七條 甲種ノ檢定ハ左ニ掲グル者ニ限り之ヲ行フモノトシ第九條乃至第十二條ニ掲グル科目及其程度ヲ参照シテ其學力及經歷ヲ調査スルモノトス但尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス

- 一 高等師範學校女子高等師範學校又ハ尋常師範學校卒業生
- 二 他ノ府縣ニ於テ小學校教員免許狀ヲ受得シタル者
- 三 文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生
- 四 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
- 五 従前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀又ハ小學校師範學校卒業證書ヲ受得シタル者
- 六 准教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ其有効期限滿チタル者
- 七 其他學力品行等ニ關シ府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

第八條 乙種ノ檢定ハ學力ノ試験ヲ行フモノトス但尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス

第九條 尋常小學校本科正教員ノ試験科目及其程度ハ左ノ如シ但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得又裁縫ハ女子ニ限ル

- 倫理 人倫道德ノ要旨
- 教育 教授ノ原理學校管理ノ方法及實地授業
- 國語 尋常師範學校ノ程度ニ準ス
- 算術 尋常師範學校ノ程度ニ準ス
- 地理 日本地理外國地理ノ大要
- 歴史 日本歴史ノ大要
- 習字 楷書行書草書
- 圖畫 自在畫法ノ大要
- 音樂 單音唱歌及樂器用法ノ大要
- 體操 普通體操及兵式體操(男子ニ限ル)
- 裁縫 通常衣服ノ縫方裁方

尋常小學校本科准教員ノ試験科目ハ前項ニ同シ其程度ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條 高等小學校本科男教員ノ試験科目ハ倫理、教育、國語、漢文、數學、簿記、地理、

歷史、博物、物理、化學、習字、圖畫、音樂及體操トス但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ノ程度ニ準ス准教員ニ關シテハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十一條 高等小學校本科女教員ノ試驗科目ハ倫理、教育、國語、數學、地理、歷史、理科、家事、習字、圖畫、音樂及體操トス但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ノ程度ニ準ス准教員ニ關シテハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十二條 高等小學校專科教員ノ試驗科目ハ圖畫、音樂、體操、家事、手工、農業、商業、裁縫、外國語ノ一科目若クハ數科目トス但何レノ科目ニ就キテモ授業法ヲ附帶シテ試驗ヲ行フモノトス

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ニ於ケル程度ト同等以上トス准教員ニ關シテハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

專科正教員ニ就キテハ讀書、習字及算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スル者ニ非サレハ試驗ヲ行ハス

第十三條 左ニ掲グルル者ニシテ乙種ノ檢定ヲ請フ者ハ其學力ヲ第九條乃至第十二條ニ掲グル

科目及其程度ニ對照シ同等以上ト認ムルトキハ其一科目若クハ數科目ノ試驗ヲ缺クコトヲ得

- 一 他ノ府縣ニ於テ小學校教員免許狀ヲ受得シタル者
- 二 文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生
- 三 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
- 四 従前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀又ハ尋常師範學校卒業證書ヲ受得シタル者
- 五 准教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ其有効期限滿チタル者
- 六 中學校卒業生
- 七 文部大臣ニ於テ尋常中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業生
- 第十四條 正教員ノ免許狀ハ其府縣限リ終身有効トス
- 准教員ノ免許狀ハ其府縣限リ有効トス其有効期限ハ七箇年以内ニ於テ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十五條 府縣知事ハ小學校教員候補者ノ名籍ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者アル都度其氏名等ヲ之ニ登錄スヘシ

府縣知事ハ前項ノ登錄ヲ了リタルトキハ其氏名等ヲ管内ヘ告知スヘシ

第十六條 小學校教員免許狀ヲ有スル者現ニ教員ノ職ニ在ラサルモ免許狀ヲ褫奪セラルヘキ教員ト同様ノ行爲アルトキハ府縣知事其免許狀ヲ褫奪スヘシ此場合ニ於テハ其族籍氏名並

事由ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

第十七條 府縣知事ハ檢定ヲ請フ者及免許狀ヲ受ケル者ヲシテ相當ノ手数料ヲ納メシムルコトヲ得

第十八條 免許狀ノ書式ハ左ノ如シ但准教員免許狀ノ書式ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

師範學校卒業生ニ與フルモノ(略之)

師範學校卒業生ニ非サル者ニ與フルモノ(略之)

第十九條 本科教員免許狀ヲ有シテ圖畫、音樂、體操、家事、手工、農業、商業、外國語ノ

一科目若クハ數科目ヲ教授シ得ル者ハ專科教員タルコトヲ得ルモノトス

第二十條 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二章 文部省ニ於ケル檢定等

第二十一條 左ニ掲グル者ハ府縣知事文部省直轄學校長等ノ具申ニ基キ文部大臣之ヲ檢定シ

テ小學校教員普通免許狀ヲ授與ス

一 小學校正教員免許狀又ハ從前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀若クハ小學校師範學科卒業證書ヲ受得シ五箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リテハ品行方正ニシテ學術及授業超衆ノ者

二 高等師範學校又ハ女子高等師範學校卒業生ニシ一箇年以上小學校教員ノ職ニ在リシ者

三 文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教授ヲ受ケタル卒業生ニ

シテ一箇年以上小學校教員ノ職ニ在リシ者

小學校教員普通免許狀ハ全國ニ通シテ終身有効ノモノトス

第二十二條 第十六條及第十九條ノ規程ハ小學校教員普通免許狀ヲ有スル者ニ關シ之ヲ適用ス

第二十三條 小學校教員普通免許狀ノ書式ハ左ノ如シ

本科正教員ニ與フルモノ(略之)

專科正教員ニ與フルモノ(略之)

●小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則(明治二十四年十一月)

(文部省令第三十號)

第一條 小學校教員ハ學校ノ種類學級ノ編制等ニ應シ相當ノ資格アル者ヲ任用スヘシ

第二條 市町村立小學校長ハ本科正教員ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第三條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ニ正教員ヲ任用スヘキ場合ニ當リ適當ノ正教員タル

ヘキ者ヲ得ルコト能ハスト認ムルトキハ期限ヲ定メテ准教員ヲ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ一時教授スル准教員ハ其年齡男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上ナルコトヲ要ス

第四條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校正教員ヲ轉任セシメントスルニ當リ若シ之カ爲メ正

教員ヲ准教員トナシ又ハ俸給ヲ減少スヘキ場合ニ於テハ本人ノ意ニ反シテ之ヲ行フコトヲ

第三類 第四條 小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則

得ス但特別ノ事情アリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

百二十八

第五條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ其情狀ニ依リ休職ヲ命スヘシ但休職ノ期限ハ一箇年以内トス

一 傷痕ヲ受若クハ疾病ニ罹リタル者其職務ヲ行フニ妨ケアルヲ二箇月以上ニ及フトキ
府縣知事ハ小學校正教員ニシテ高等師範學校、女子高等師範學校、工業教員養成所、尋常師範學校又ハ尋常師範學校ニ於ケル小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ休職ヲ命スルコトヲ得

豫備後備ノ軍籍ニ在ル小學校正教員戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職ヲ命セラレタルモノトス

休職ノ期限ハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス

二 學校編制ノ變更等ニ依リ其人ヲ要セサルニ至リタルトキ
休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサル等ノ外總テ本職者ト異ナルコトナシ

第六條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ退職ヲ命スヘシ

一 刪除

二 傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ終身其職務ニ堪ヘサルトキ休職者ノ休職期限滿ツルトキ

亦同シ

三 刪除

四 休職者ノ代員トシテ任用セラレタル場合ニ於テ休職者ノ復職スルトキ

従前ノ成規ニ依リ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ効ヲ有スル小學師範學科卒業證書ヲ有シ教員タル者ニシテ其有効期限滿ツルトキハ特ニ辭令書ヲ用ヒスシテ前項ニ依リ退職ヲ命シタル者ト同一ニ見做スヘシ

第七條 府縣知事ハ休職退職ノ事由ニ關シ第五條第六條ノ例ニ依リ難キモノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第八條 市町村立小學校長及教員ノ任用休職復職退職等ニハ辭令書ヲ交付スヘシ

第九條 私立小學校長其小學校ノ教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第十條 第三條准教員任用ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス但任用ノ期限ハ其設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 私立小學校ノ學校長及教員ノ任用解職ハ其設立者ヨリ府縣知事ニ開申スヘシ

第十二條 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

●小學校長及教員職務及服務規則 (明治二十四年十一月 文部省令第二十一號)

第一條 小學校長及教員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ノ指定ニ從ヒ其職務ニ

第五編 第四章 小學校長及教員職務及服務規則

百二十九

服スヘシ

百三十

第二條 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬教員ヲ監督スヘシ

學校長ヲ置カサル學校ニ於テハ首席教員學校長ノ職務ヲ行フヘシ

第三條 正教員及准教員(一時教授スル者)ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ並之ニ關スル事務ヲ掌ルヘシ

第四條 准教員(補助教授スル者)ハ正教員ノ職務ヲ助クヘシ

第五條 教員ノ執務時間ハ每週三十六時以下トス

第六條 市町村立小學校教員ハ補習科ノ設ケアル場合ニ於テハ必要ニ應シ其教授ヲ擔任スヘシ

市町村立小學校教員ハ前項ニ依リ補習科ノ教授ヲ擔任スヘキ場合ニ於テ相當ノ報酬ヲ受ケルトキハ前條ニ掲グル執務時間ノ制限以外ニ及フモ每週六時マテハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第七條 市町村立小學校及教員並其家族ハ府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トナ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第八條 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

● 正教員准教員ノ別

(明治二十四年十一月
文部省令第二十三號)

第一條 明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令ニ依ラスシテ授與シタル小學校教員

免許狀又ハ之ト同一ノ効チ有スル小學師範學科卒業證書チ有シ高等小學科ノ教員タルコトヲ得ヘキ資格チ有スル者ハ其免許狀又ハ卒業證書ノ有効期限間高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得但圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、工業、手工、商業ノ一科若クハ數科ノ外教授シ得サル者ハ此限ニ在ラス

第二條 第一條ニ掲グル免許狀若クハ卒業證書チ有シ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、工業、手工、商業ノ一科若クハ數科ニ關シ高等小學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ資格チ有スル者ハ其免許狀又ハ卒業證書ノ有効期限間高等小學校ノ專科正教員タルコトヲ得

第三條 第一條ニ掲グル免許狀チ有シ高等小學校ノ卒業生タルコトヲ得ヘキ資格チ有スル者ハ其免許狀ノ有効期限間高等小學校ノ本科准教員タルコトヲ得但圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ノ外教授シ得サル者ハ此限ニ在ラス

第四條 第一條ニ掲グル免許狀チ有シ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ニ關シ高等小學校ノ授業生タルコトヲ得ヘキ資格チ有スル者ハ其免許狀ノ有効期限間高等小學校ノ專科准教員タルコトヲ得

第五條 第一條ニ掲グル免許狀又ハ卒業證書チ有シ尋常小學科又ハ小學簡易科ノ教員タルコトヲ得ヘキ資格チ有スル者ハ其免許狀又ハ卒業證書ノ有効期限間尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得但圖畫、唱歌、體操、裁縫、工業ノ一科若クハ數科ノ外教授シ得サル者ハ此限ニ在ラス

第六條 第一條ニ掲グル免許狀ヲ有シ尋常小學科ノ授業生タルコトヲ得ヘキ資格ヲ有スル者ハ其免許狀ノ有効期限間尋常小學校ノ本科准教員タルコトヲ得但圖書、唱歌、體操、裁縫ノ一科若クハ數科ノ外教授シ得サル者ハ此限ニ在ラス

第七條 府縣知事ハ本令ノ規程ニ依リ難キモノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

●第五章 教科用圖書

●教科用圖書檢定規則

(明治二十年五月 文部省令第二號)

第一條 教科用圖書ノ檢定ハ師範學校令中學校令小學校令及學則ノ旨趣ニ合シ教科用ニ適スルコトヲ認定スルモノトス

第二條 圖書ノ出版者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ該圖書二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ地方廳ヲ經テ文部省ニ納ムヘシ但定價ヲ記載セサル圖書ニ就テハ手数料金拾五圓ヲ納ムヘク又檢定ヲ得タル後定價ヲ増加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ

第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中瑣少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其廉ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ

第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數、定價、目的トスル學校或學科ノ種類、版權免許又ハ出版届ノ年月日並該圖書ニ記載スル所ノ著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ヲ廣告スヘシ

第六條 檢定ノ效力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告シタル定價、版權免許又ハ出版届ノ年月日並著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ效力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定ヲ得サリシ圖書ノ出版者ノ願ニ依リテハ其圖書ノ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ指示スルコトアルヘシ

第九條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ヲ納ムルコトヲ要セス

第十條 圖書ノ出版者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變更アルニ會スルトキハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後ハ其願下ヲナストキ又ハ其他何等ノ事由アリトモ既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還付セサルモノトス

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書ヲ増減若クハ校訂

シ又ハ字體畫形ヲ變更シ又ハ註解附錄序跋ヲ加除若クハ變更スル等ノ場合ヲ包含スルモノトス

百三十四

- 第十三條 第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ廉ヲ指示シタルトキハ六箇月間内ニ其廉ヲ修正シテ該圖書ノ檢定ヲ追願スヘシ其期限内ニ修正追願セザルトキハ該圖書ハ檢定ヲ與ヘス
- 第十四條 檢定ヲ得タル圖書ハ每冊見易キ所ニ明治何年何月何日文部省檢定済何學校何學科用ノ文字ヲ記載スヘシ但小學校教科用圖書ニ在リテハ仍生徒用教師用ノ別ヲ記載スヘシ
- 第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定済其他之ニ類スル文字ヲ記載スルコトヲ得ス
- 第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

●公立小學校教科用圖書採定方法 (明治二十年三月 文部省訓令第三號)

- 第一條 北海道廳長官府縣知事ハ公立小學校ノ教科用圖書ヲ新定又ハ更定セントスルトキハ其都度小學校教科用圖書審查委員ヲ設ケテ其事由ノ當否實施ノ時期等ヲ審議セシメ併セテ圖書ヲ採擇セシムヘシ
- 第二條 審查委員ハ左ノ諸員ヲ以テ組織スヘシ
- 一 尋常師範學校長若クハ長補
 - 二 學務課員一名

- 三 尋常師範學校教頭及附屬小學校上席訓導
 - 四 小學校教員三名
 - 五 該地方經濟上ノ情況ニ通スル者二名
- 第三條 北海道廳長官府縣知事ハ審查ニ係ル圖書ニ掲載スル所ノ事物ニ通スル教員等ヲシテ該圖書ノ採擇上ニ限リ審查委員ト同一ノ資格ヲ以テ便宜之ニ參與セシムヘシ但一種類ノ圖書ニ付一名ニ限ルヘシ
- 第四條 審查委員ニ於テ審查上ニ關スル事項ヲ決定スルハ會議ニ依ルヘキモノトス
- 第五條 北海道廳長官府縣知事ハ審查委員中ニ就キ審查委員會ノ議長ヲ命スヘシ
- 第六條 審查委員ハ自己及其親屬並其地方廳學務課員ノ著選譯述編纂校閱及出版等ニ係ル圖書ヲ採擇スルコトヲ得サルモノトス但已ムヲ得サル場合ニ於テハ北海道廳長官府縣知事ニ其事情ヲ詳具シ認可ヲ經テ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得
- 第七條 審查委員ハ未タ文部大臣ノ檢定ヲ經サル圖書ト雖モ之ヲ採擇スルコトヲ得但北海道廳長官府縣知事ハ本文ニ依リ採擇シタル圖書ヲ新定又ハ更定ノ圖書ニ充ントスルトキハ豫メ文部大臣ノ檢定ヲ經ヘシ
- 第八條 審查委員ニ於テ審查ヲ終ルトキハ其意見及會議ノ顛末ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ
- 第九條 北海道廳長官府縣知事ニ於テ教科用圖書ヲ新定又ハ更定スルニハ一教科ニ就キ一種ニ申報スヘシ

ノ圖書ヲ採擇スヘシ但郡部山海等土地ノ情況ニ依リ己ムヲ得サル場合ニ於テハ一學科ニ就
キ二種以上ノ圖書ヲ採擇スルモ妨ケナシ

第十條 北海道廳長官府縣知事ハ教科用圖書ノ新定又ハ更定ヲ公布スルニ二箇月前ニ於テ其事
由實施ノ時期圖書ノ目錄及第八條審查委員ノ申報又第六條但書第九條但書ノ場合ニ關スル
處分アルトキ其事情ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

●小學校教科用圖書審查等ニ關スル規則 (明治二十四年十一月
文部省令第十四號)

第一條 小學校圖書審查委員ハ府縣知事之ヲ命ス其ノ人員左ノ如シ

- 一 府縣高等官及學務擔任官吏各一名
- 二 府縣參事會員二名但府縣制ヲ施行セサル地方ニ於テハ府縣會當置委員二名
- 三 尋常師範學校長
- 四 尋常中學校長一名
- 五 尋常師範學校教員二名
- 六 小學校教員三名乃至五名

審查委員長ハ府縣高等官ニシテ審查委員タルモノヲ以テ之ニ充ツ

第二條 審查委員ハ自己又ハ其親族ノ著選譯述編纂校閱出版等ニ係ル圖書ヲ審查スルコトヲ
得ス但己ムヲ得サル場合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第三條 審查委員ニ於テ審查ナ了ルトキハ委員長ヨリ其願末ヲ府縣知事ニ具申スヘシ

第四條 府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ相當ト認ムル圖書ハ之ヲ其府縣小學校教科用圖書ト定
ムヘシ

第五條 府縣知事ハ四箇年ヲ經ルニ非サレハ小學校ノ教科用圖書ヲ更定スルコトヲ得ス但本
項ノ例ニ依リ難キ事情アルトキハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

前項ニ依リ更定シタル圖書ヲ小學校ニ用フルニハ之ヲ課スヘキ最下學年ノ兒童ヨリ用ヒシ
メ其他ノ兒童ニハ從來ノ教科用圖書ヲ裝用セシムヘシ但本項ノ例ニ依リ難キ事情アルトキ
ハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣
知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 此規則施行前府縣知事ニ於テ定メタル小學校教科用圖書ハ仍其效力ヲ有スルモノト
ス

第七條 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第六類 衛生

第一章 衛生會

●地方衛生會規則

(明治二十四年八月
勅諭第三百七十四號)

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設ケルコト左ノ如シ
會長
府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ
委員

府縣書記官

警部長

但東京府ハ警視廳警務局長

府縣參事官

名譽職府縣參事會員

一人

四人

府縣廳所在地ノ郡長又ハ市長

醫師

三人乃至五人

獸醫

一人

化學家

一人

臨時委員

書記 府縣廳ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具申ス

第六條 會長事故アルトキハ書記官之ヲ代理シ書記官事故アルトキハ開會當日出席委員ノ互選ヲ以テ會長ヲ定メ其事務ヲ代理セシム

第七條 委員中府縣參事官醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ缺員ト爲スコトヲ得

名譽職府縣參事會員ハ改選毎ニ郡市部各二名ヲ互選シ府知事之ヲ命ス

第八條 官吏ノ資格ヲ以テ委員トナリタル者ノ旅費ハ其所屬廳ノ經費ヨリ支給シ市長ノ旅費ハ市役所ノ經費ヨリ支給シ其他ノ委員ニ係ル手當旅費ハ府縣稅ヨリ支給スルコトヲ得

第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

第十條 府縣制ヲ施行セサル地方ニ於テハ名譽職府縣參事會員ノ職務ハ府縣會常置委員ヲ以

テ之ニ充ツ此場合ニ於テハ常置委員改選毎ニ該員中ニ於テ互選シ府縣知事之ヲ命ス

第二章 醫師

●醫師免許規則

(明治十六年十月
布告第三十五號)

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學校若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金參圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免業ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ顯出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免業下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢止又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其狀ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經「内務卿」ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 「内務卿」ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀勘査シ中央衛生會ノ審査ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

●試驗ヲ要セスシテ醫師ノ免狀ヲ授與スヘキ

者格例 (明治十六年十一月
内務省達乙第四十六號)

本年第三十五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試驗ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及左ノ條件ヲ具ヘ當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限り候條右ニ適

應スル醫學校有之候向ハ其校則教則及教員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル一切ノ書類取覽ヲ豫メ當省ヘ稟議スヘシ此旨相達候事

但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス

- 一 三名以上ノ醫學士(歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等其履歷ニヨリ本條ニ準スルコトアルヘシ)ヲ以テ教諭ニ充ルモノ
- 一 生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ
- 一 四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試驗法ノ完備スルモノ
- 一 生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ
- 一 器械標本ノ具備スルモノ

●從來開業ノ醫師ハ試驗ヲ要セス鑑札等ヲ附與ス (明治十年八月 内務省達乙第七十六號)

昨明治九年當省乙第五號ヲ以テ醫師試驗ノ儀相達從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進ノ基礎相立候處維新以來該術ヲ以テ諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ醫療若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ簡條ニ照觀シ本人ノ願書及履歷書ニ管廳ノ添書ヲ付シ可申出此旨相達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノ、外ハ總テ成規ノ試驗ヲ遂ケ候儀ト可相心得事

- 一 內務省警視病院醫員及舊警視廳醫員
但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ
- 一 陸軍省軍醫副及軍醫試補以上
- 一 海軍省軍醫副以上
- 一 文部省及舊大學東校少得業生及ヒ醫學教官以下當直醫以上並同省直轄諸學校醫員（皇漢醫道掛種痘館掛ハ之ヲ除ク）
- 一 司法省及舊彈正臺醫員
- 一 宮内省六等侍醫以上及舊少典醫舊權少侍醫以上
- 一 開拓使病院醫員
- 一 府縣病院及地方公立病院當直醫以上

第三章 獸醫

●獸醫免許規則

（明治二十三年八月
法律第七十六號）

- 第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル
- 第二條 獸醫免狀ヲ受ケルコトヲ得ル者左ノ如シ
 - 一 獸醫免許試験ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者
 - 一 官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

- 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者
- 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第四條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第六條 （明治二十九年法律第二十七條ニ依リ消滅）
- 第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第八條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條

第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ

第六編 第三章 獸醫免許規則

解クコトアルハシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條 免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 獸醫業停止中其業ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附 則

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具申ニ依リ農商務大臣

ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此規則ヲ適用ス

第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業免狀規則其他此ノ法律ニ抵觸スル規定ハ總テ廢止ス

●獸醫假免許手續(明治二十三年九月農商務省訓令第四十四號)

第一條 獸醫假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ

具狀スヘシ

一 營業區域ノ廣袤及地勢ノ險夷

一 區域内牛馬ノ數

一 營業年限

第二條 獸醫假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

第四章 蹄鐵工

●蹄鐵工假免許取扱手續(明治二十三年七月農商務省訓令第三十八號)

第一條 蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ蹄鐵工乏シキ地ニ限り左ノ事項ヲ取調

本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

一 區域、廣袤、地勢及馬匹頭數

一 營業年限

第二條 假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

第五章 藥劑

●藥用阿片賣買並製造規則(明治二十一年八月布告第二十一號)

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上

第六類 第四章 蹄鐵工假免許取扱手續○第五章 藥用阿片賣買並製造規則

ケ地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ

第三條 地方廳ヨリ拂下クル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼附スルモノトス

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ內務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特別札鑑ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立其拂下ケテ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ヲ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルトキハ其量目竝ニ其住所姓名及年月日(病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名)ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買ス

ルコトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖竝ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受竝ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名竝ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但內務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルハ

シト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒ子」ノ多少ニ因ルヘシ
第十五條 內務省ニ於テ買上ケ及拂下クル阿片ノ「モルヒ子」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分
以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒
收シ百五十拾圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

●賣藥規則 (明治十年一月)
布告第七號

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥溶劑散塊煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附
シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量效能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ
願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但免許ヲ受タル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生
シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者ハ其山ヲ届出
舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營
業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳へ願出免許鑑札ヲ
受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲
スルトキハ其由ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期
限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月
ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲グル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業
者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス
第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳へ届
出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡ザント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書
換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換テ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

十四

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ヶ年

金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘシ

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限

リ鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前預許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分

六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限

過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ迷惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付拾圓以上

廿五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ假造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ